

カテゴリー 多様性と共生

全学モジュール I 科目

テーマ 16-A1

現代経済と企業活動

対象学部: 多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部

※経済学部の学生は履修できません

現代経済と企業活動

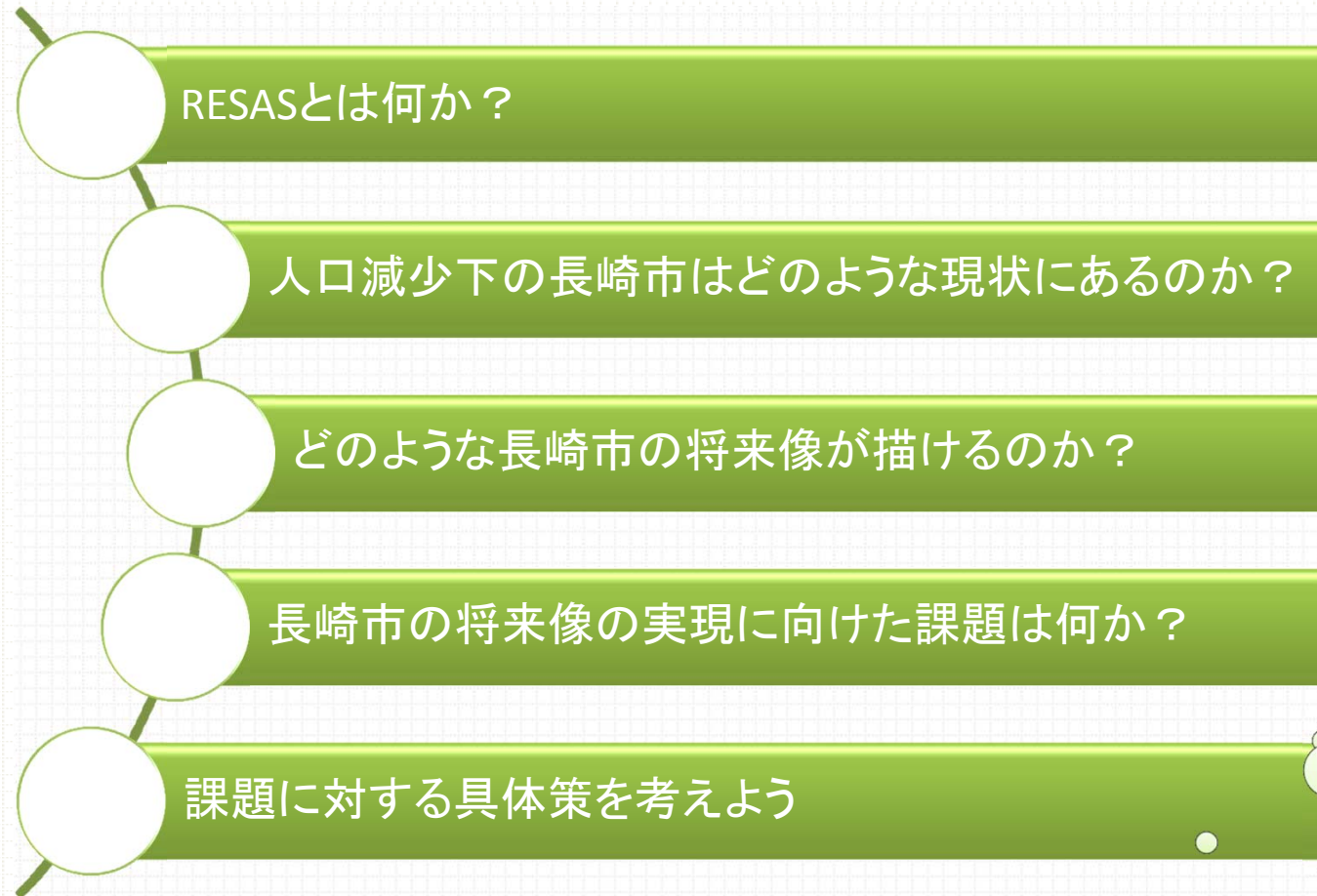
趣旨：現代経済の仕組みを、原理や制度、歴史的変遷、国や地域との比較等を通じて考察し、複眼的で幅広い視点を獲得



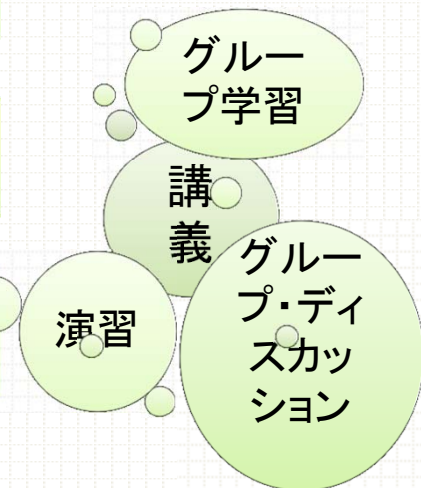
経済政策と公共部門

第3クォーター(9~11月)月曜 I・II

担当教員: 赤石 孝次



- RESAS
- データ分析
- 人口減少社会
- 地域政策
- 長崎市



企業の仕組みと行動

第3クォーター(9~11月)火曜 I・II

担当教員:宇都宮 譲

なぜ企業はたいてい株式会社か？

所有と経営の分離

株式会社

科学的管理法

大きくなった企業がどうやって意思決定するのか？

統計的品質管理

品質保証

なぜ管理が必要か？

労働生産性

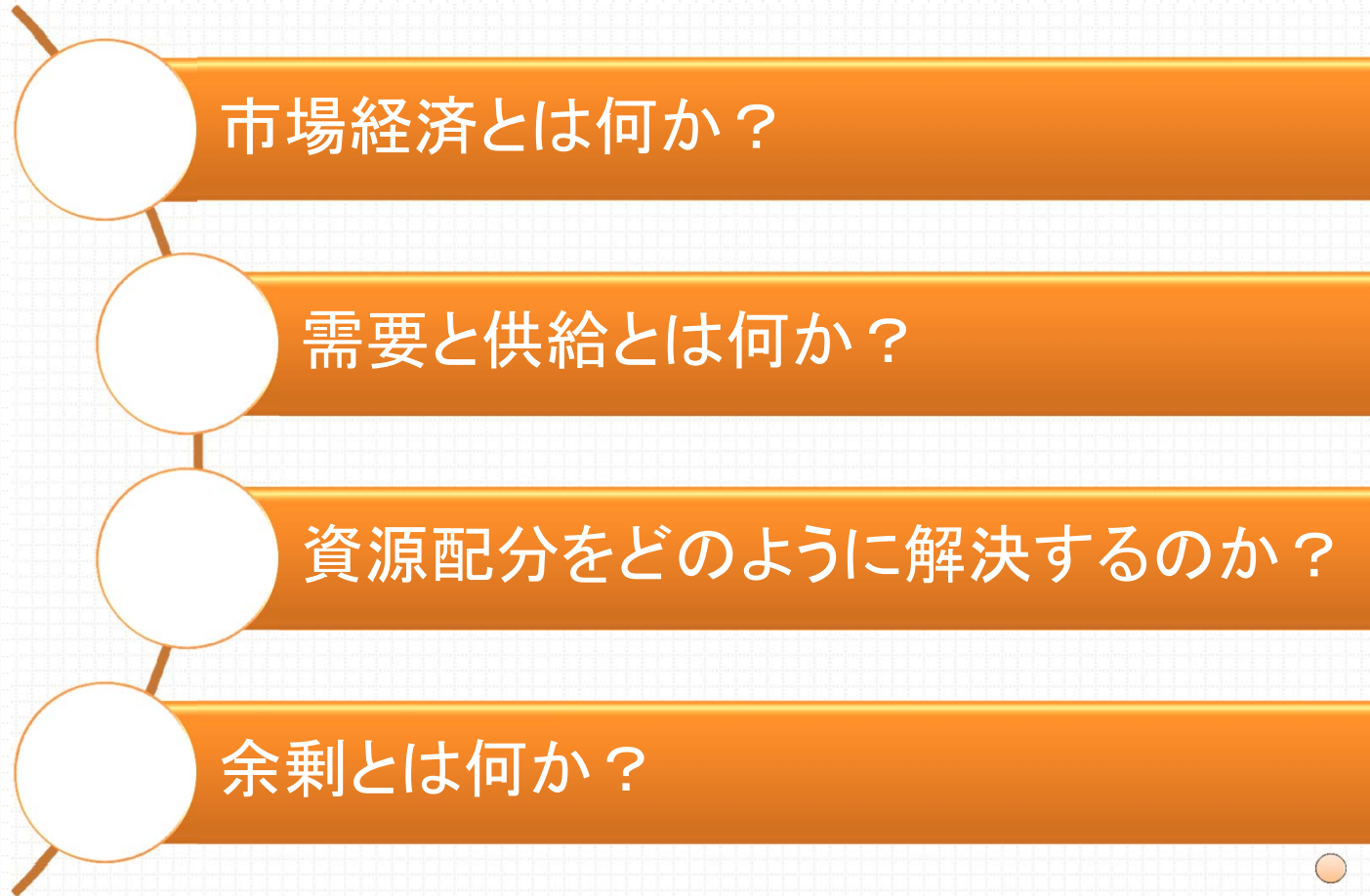
自然環境に負荷を与えないように何をすべきか？

主に
講義

経済活動と社会

第4クォーター(12~2月)火曜 I・II

担当教員:吉沢裕典



市場経済

競争市場

需要と供給

資源配分

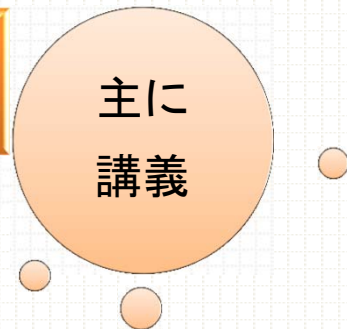
資源配分

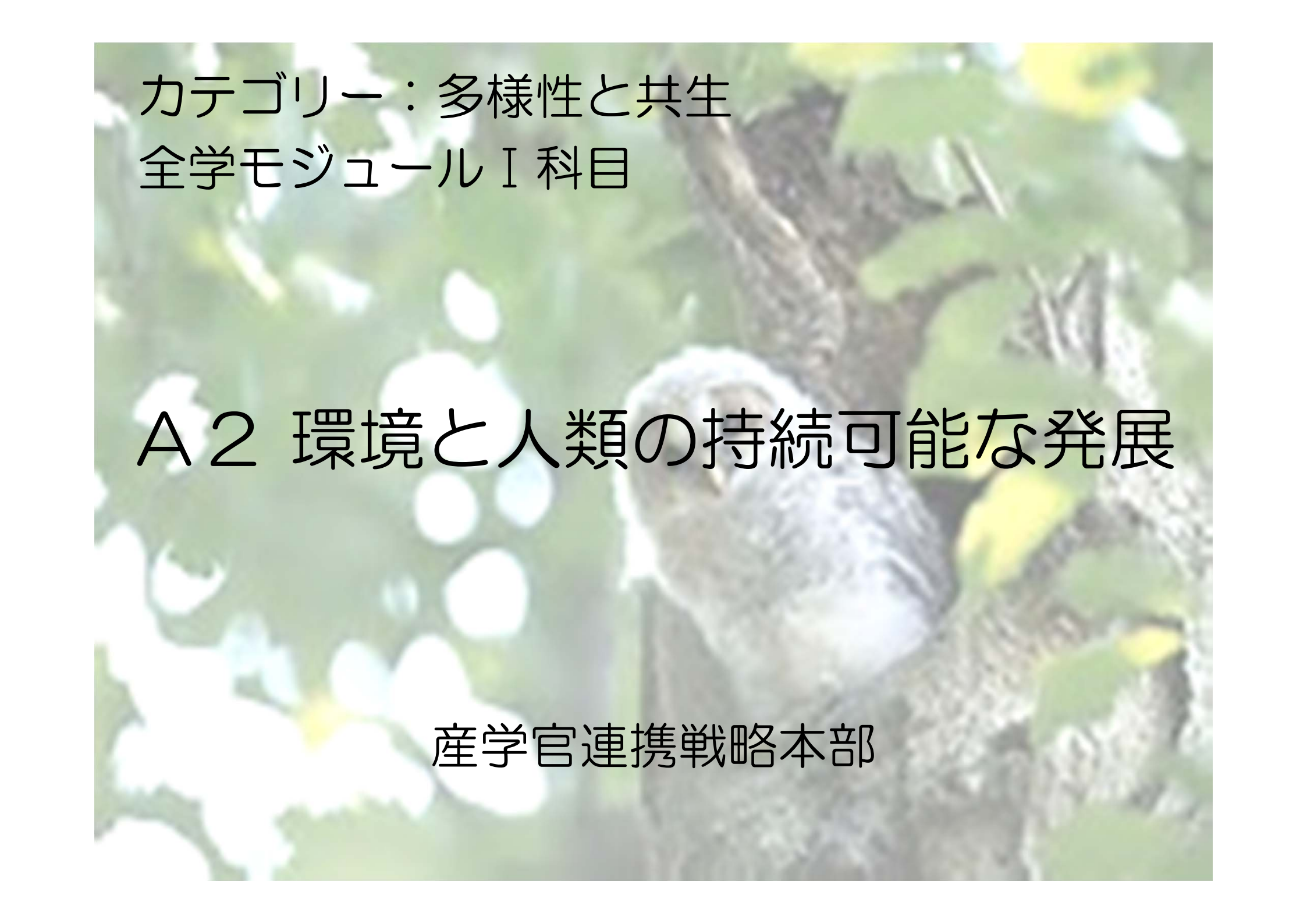
余剰

市場の効率性



主に
講義





カテゴリー：多様性と共生
全学モジュールⅠ科目

A2 環境と人類の持続可能な発展

産学官連携戦略本部

本モジュールで学ぶこと

目的：人類の持続可能な発展（**sustainable development ; SD**）の実現

学ぶこと：

- 環境問題の基本的な考え方や国際環境法の特徴・理念・精神など
- 「環境基本法」と進むべき方向や取るべき行動
- 国内の環境関連法

具体的な学習内容

国際環境法（環境問題と国際環境法）

国内環境法Ⅰ（環境基本法ほか）

国内環境法Ⅱ（環境関連法）

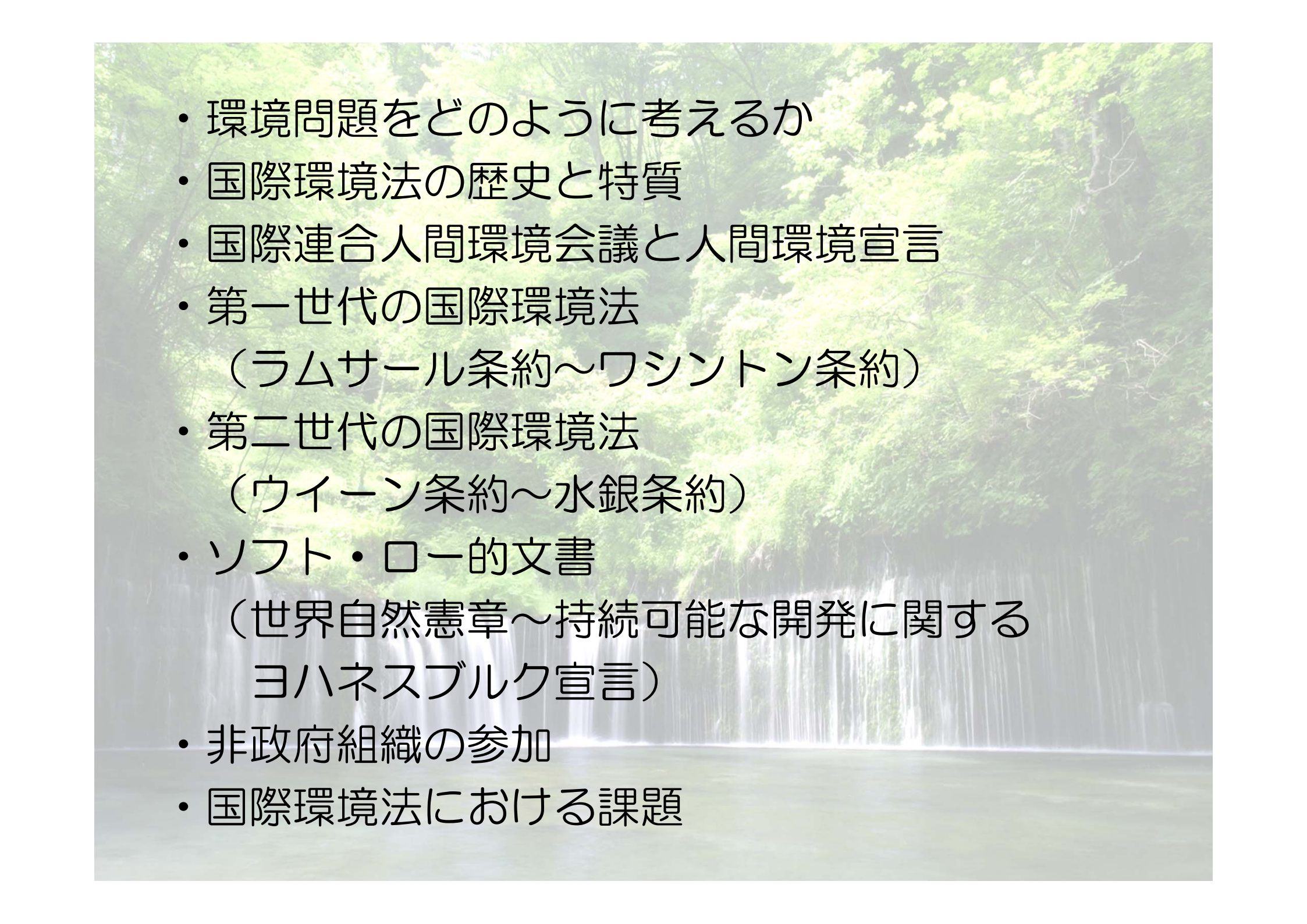
国際環境法

○環境問題に対する考え方

○国際環境法の歴史と特質

○国際環境法の概要

環境問題の基本的考え方や国際環境法の
理念・精神について理解を深める。

- 
- 環境問題をどのように考えるか
 - 国際環境法の歴史と特質
 - 国際連合人間環境会議と人間環境宣言
 - 第一世代の国際環境法
（ラムサール条約～ワシントン条約）
 - 第二世代の国際環境法
（ウィーン条約～水銀条約）
 - ソフト・ロー的文書
（世界自然憲章～持続可能な開発に関する
ヨハネスブルク宣言）
 - 非政府組織の参加
 - 国際環境法における課題

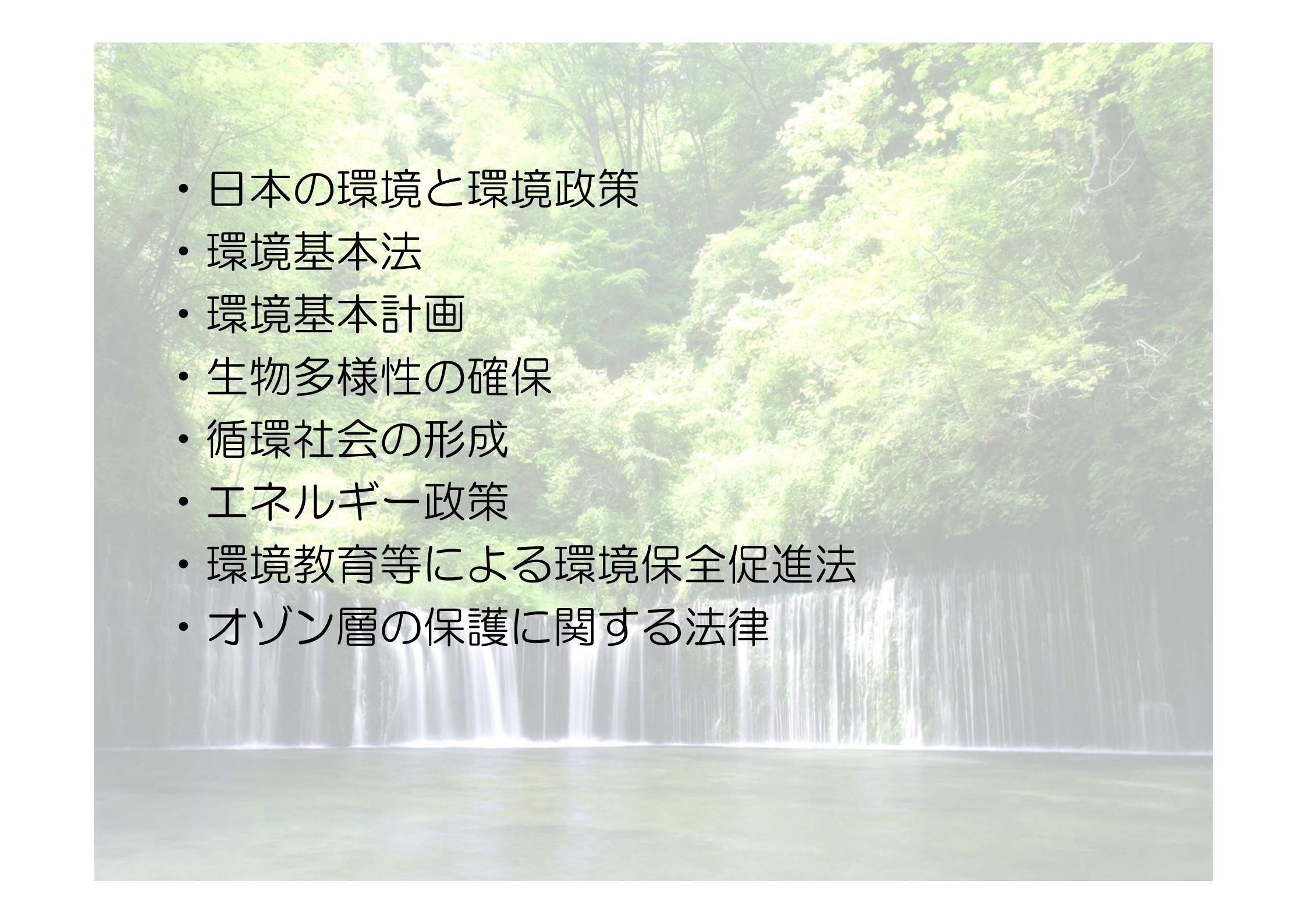
国内環境法Ⅰ

○国内の環境問題と対策および歴史

○国際環境法との関係

○「環境基本法」等

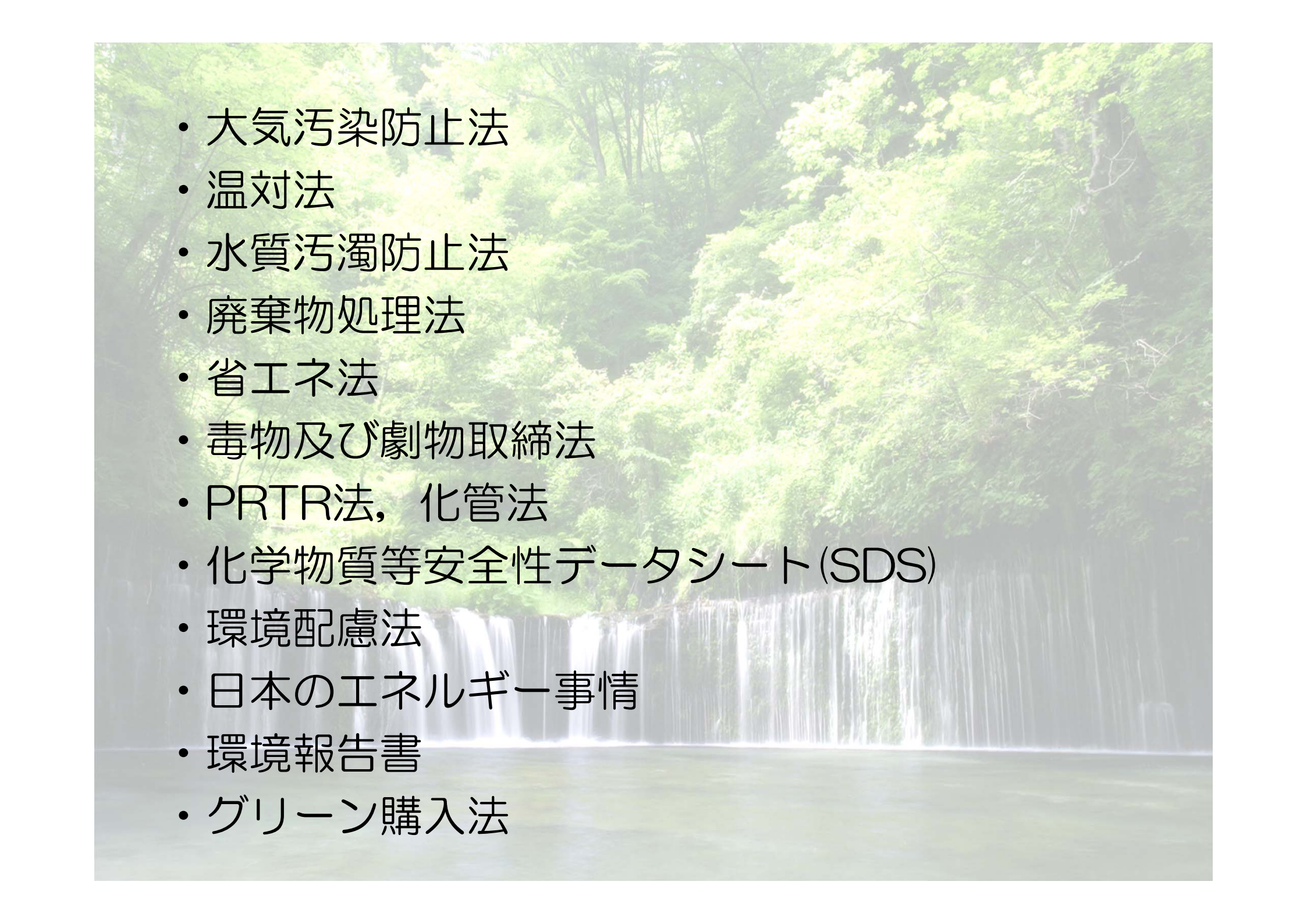
環境に関する我が国の基本的考え方を理解し、
我々が進むべき方向や取るべき行動等
について理解を深める。

- 
- 日本の環境と環境政策
 - 環境基本法
 - 環境基本計画
 - 生物多様性の確保
 - 循環社会の形成
 - エネルギー政策
 - 環境教育等による環境保全促進法
 - オゾン層の保護に関する法律

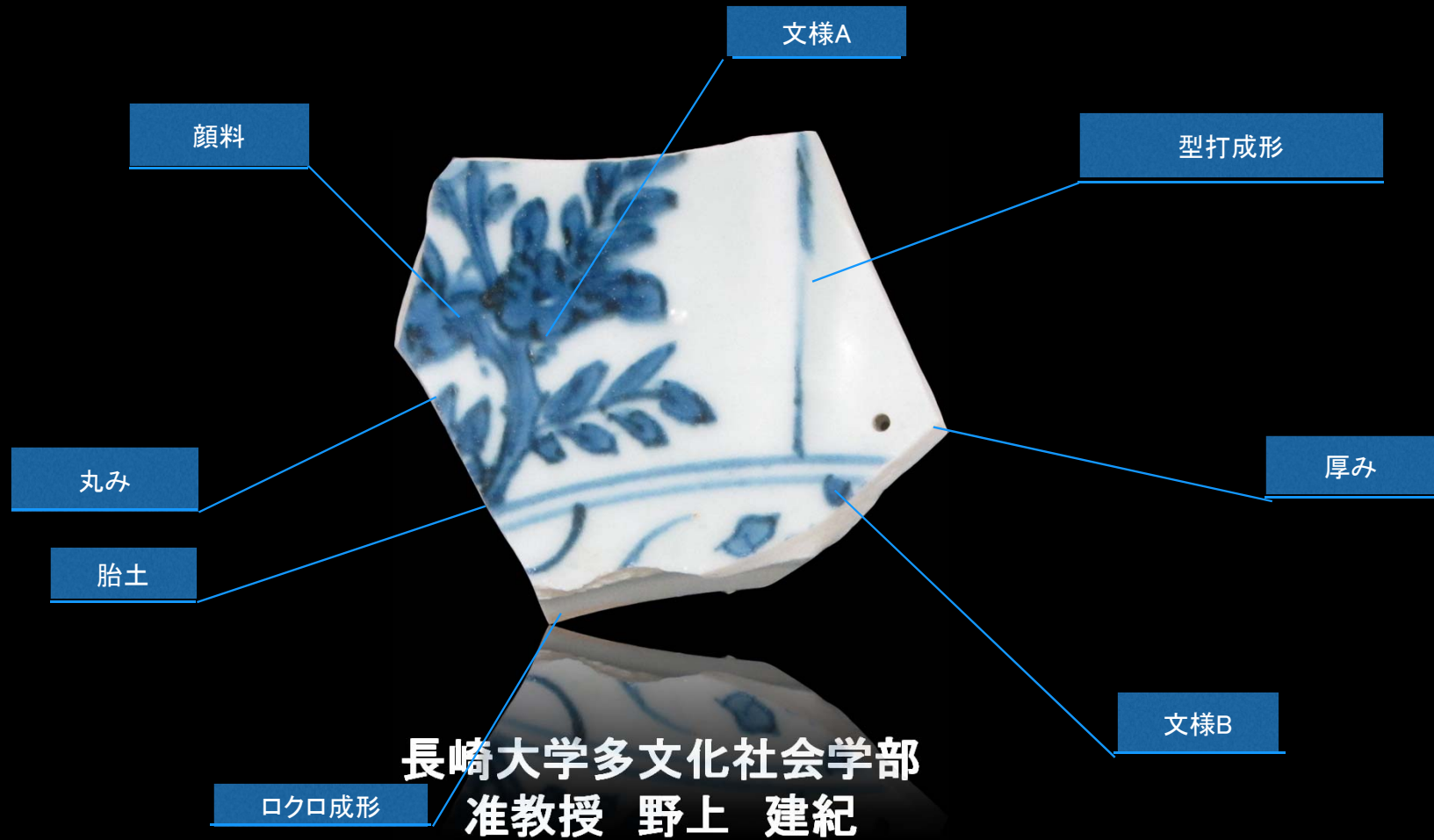
国内環境法Ⅱ

- 国内の環境関連法等
- 環境報告書と環境コミュニケーション
- 日本のエネルギー事情

国内の環境関連法を理解するとともに、
環境コミュニケーションの重要性
について理解を深める。

- 
- 大気汚染防止法
 - 温対法
 - 水質汚濁防止法
 - 廃棄物処理法
 - 省エネ法
 - 毒物及び劇物取締法
 - PRTR法, 化管法
 - 化学物質等安全性データシート (SDS)
 - 環境配慮法
 - 日本のエネルギー事情
 - 環境報告書
 - グリーン購入法

日本を知り、世界を知る

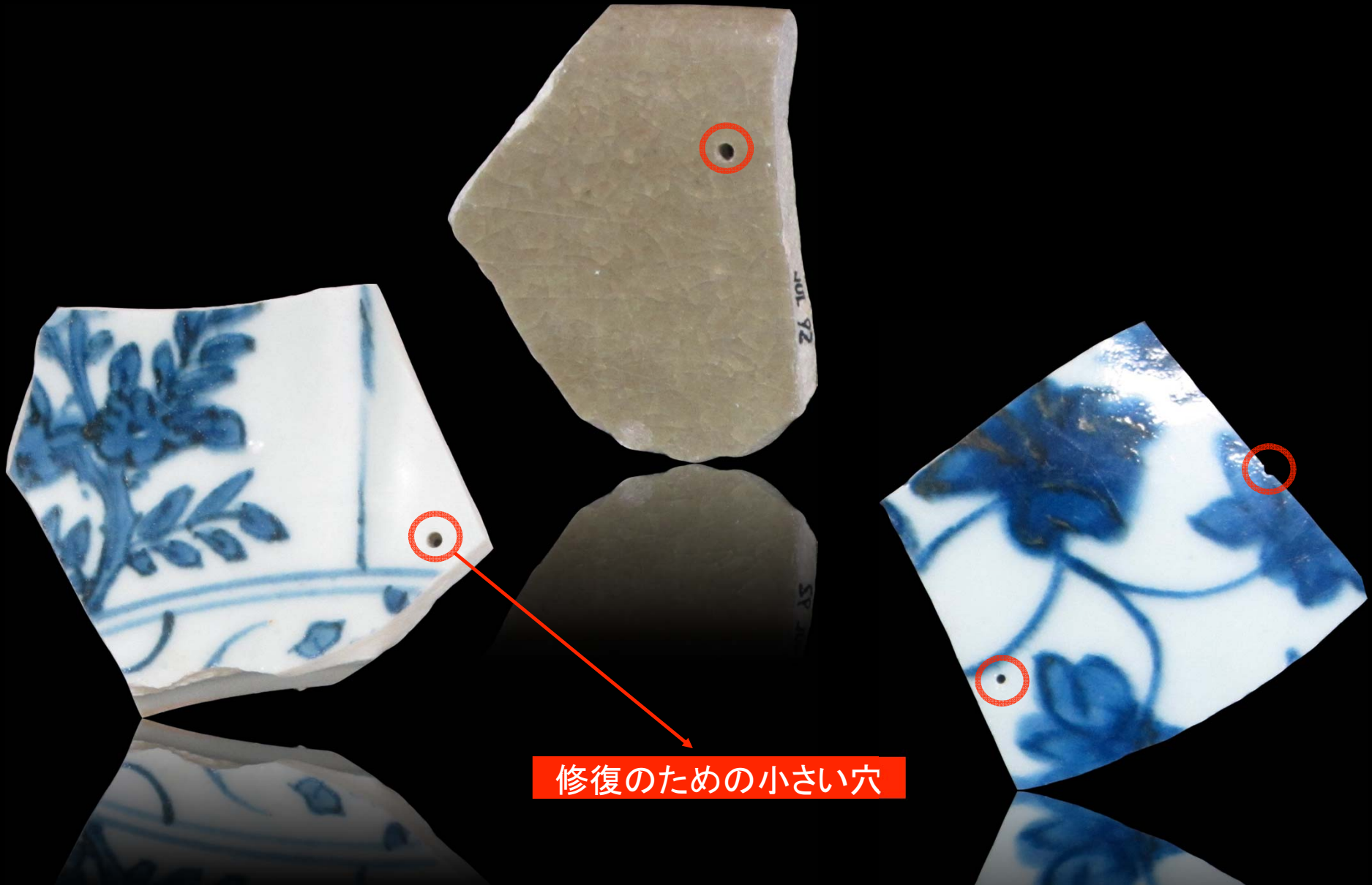


ジュファール遺跡
(アラブ首長国連邦)



明時代・景德鎮





修復のための小さい穴



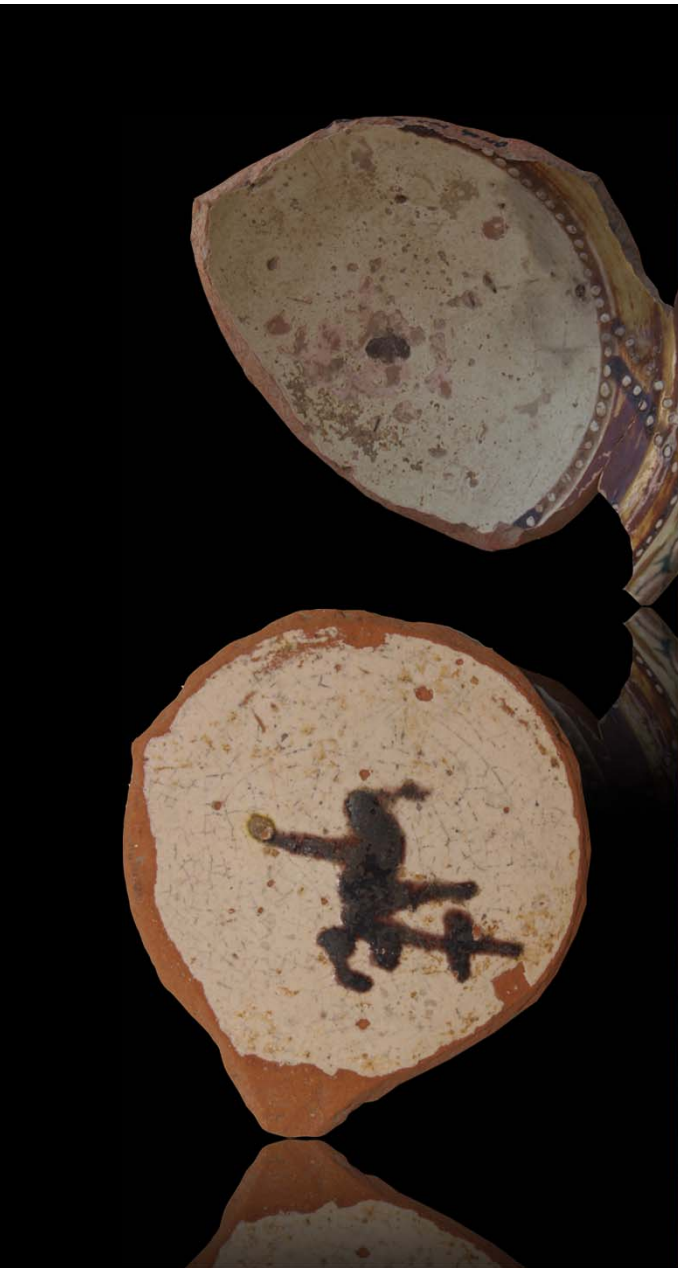
クメール陶器



カンボジアの熱帯雨林

アフガニスタンの龍の谷

私です。





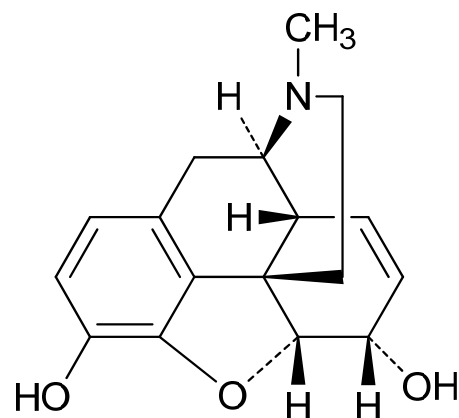
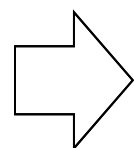
唐津焼(江戸時代)

茂木港外遺跡海底 水深20m

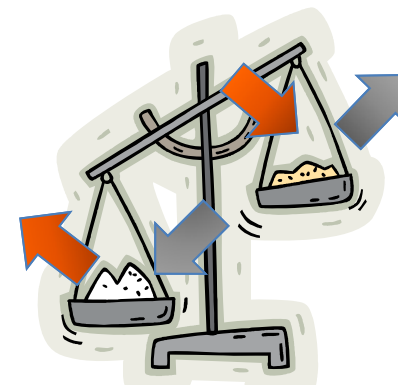
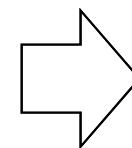
薬と生命科学を理解するための基礎科学



薬学部
教官



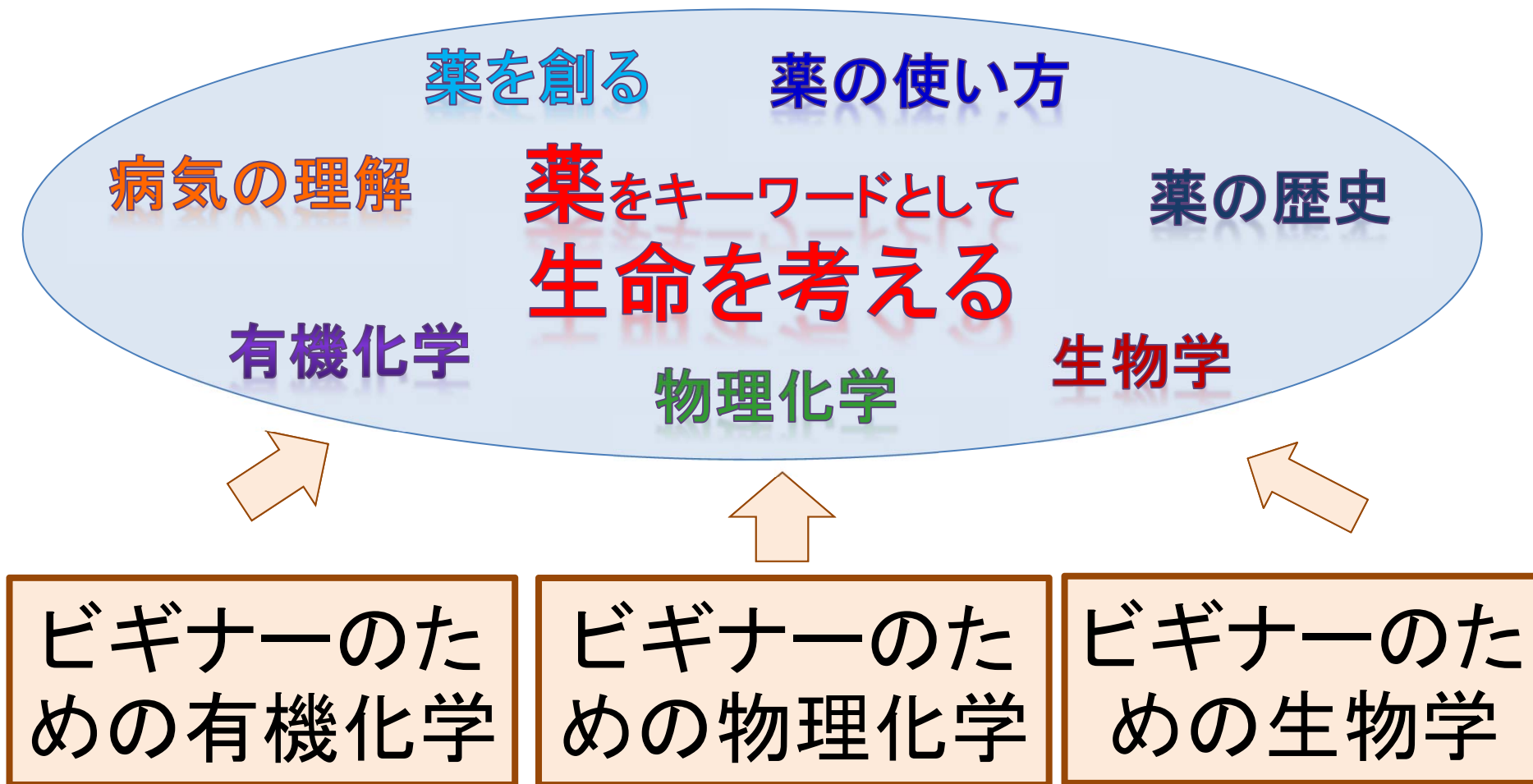
有機化合物



薬 = 毒

DNA(遺伝子)もタンパク質も、そして動物、植物、微生物も、すべて**化学物質**で出来ている。生命は、**物質間の反応**で維持されている。

薬と生命科学を理解するための基礎科学



元素・炭化水素・官能基・触媒

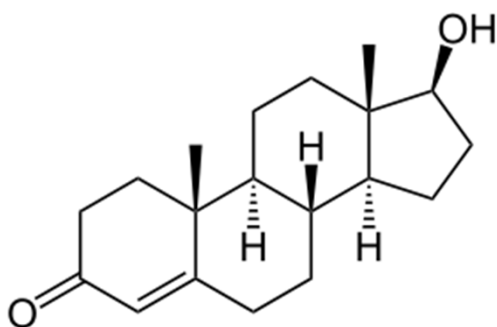
薬毒物の物理的性質と作用機構、定量・定性分析法

遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、診断法開発、遺伝子治療

ビギナーのための有機化学

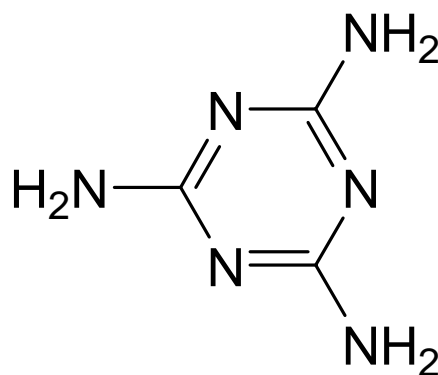
有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品、医薬品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象も有機化学反応が織りなすものといえる。この講義では、有機化学の基礎を学ぶ事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。

オリンピック ドーピング



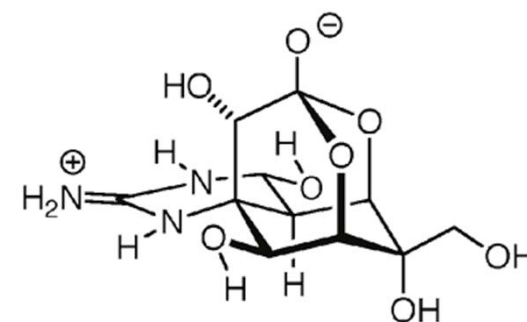
ステロイド

<中華ボイス>金メダルよりも
安全な粉ミルクを！



メラミン

河豚毒



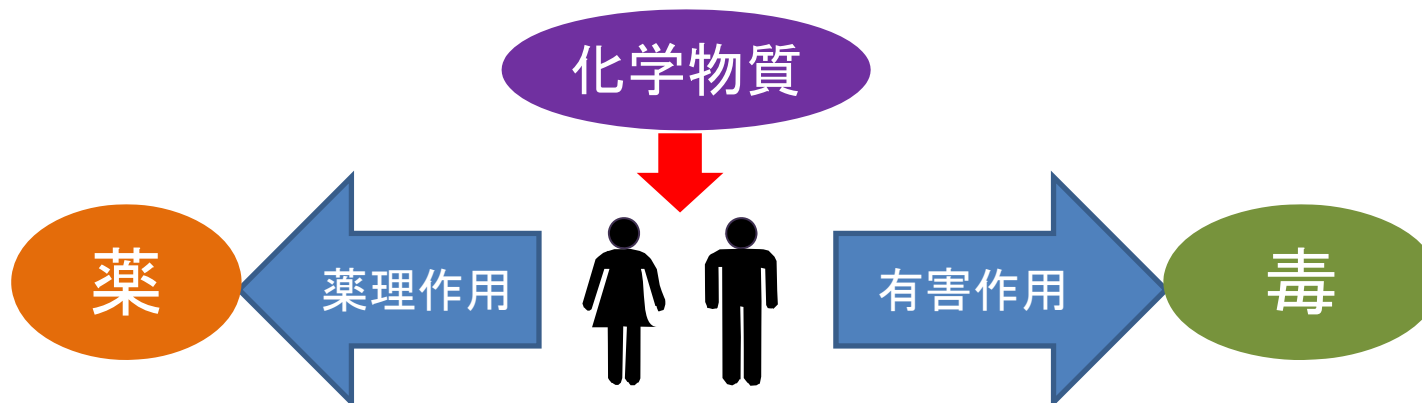
テトロドトキシン

授業方法の特徴：デモ化学実験 & クリッカー利用

ビギナーのための物理化学

生命現象の探求には、生体と種々の化学物質（薬物や毒物、栄養素や環境汚染物質など）との関わりを理解する事が重要である。そのために、物質の状態を数値化し、分子レベルで分子の性質及び化学変化を検証し、論理的に解釈できることが重要である。この講義では、身の回りの事象を例にとり、物理化学の基礎を学ぶ。

私たちの身のまわりにはどのような化学物質があるのか？
また、それは薬なのか毒なのか？



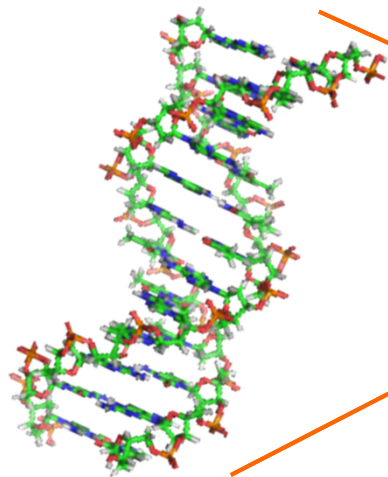
この問題を明らかにするためには、化学物質の性質と量を調べる分析法が重要

授業方法の特徴：スモールグループディスカッション、
プレゼンテーション

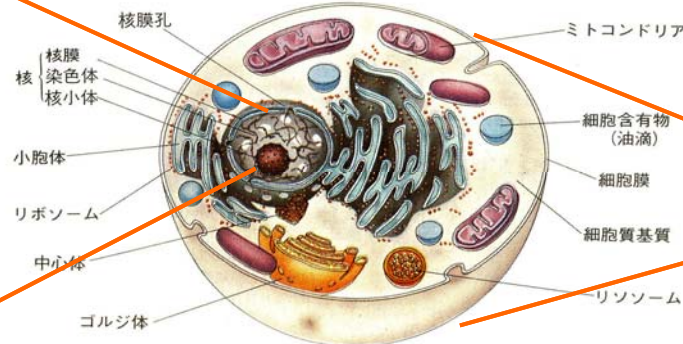
ビギナーのための生物学

生物学の基礎を学び、「遺伝子」と「疾患」との関わりや最先端医薬品(バイオ医薬品)や組換え食品のあり方を理解する。また、それらの知識を基にして、現代社会における課題を抽出してその問題を解決するための演習を行い、自ら学び、考え、主張し行動改革できる能力を養う。

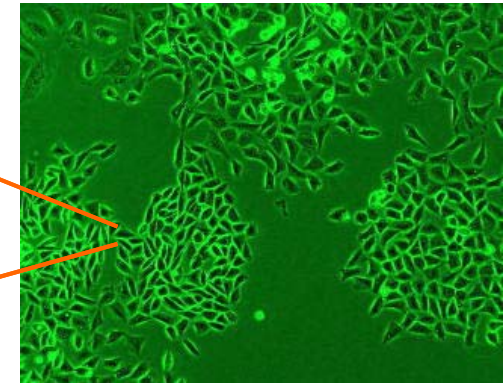
ゲノム
DNAの二重らせん



細胞の構造



培養中の
動物細胞



授業方法の特徴: グループ・プレゼンテーション

受講生の学部と薬・生命科学の関連性

水産学部



経済学部

医療費(薬)
オプジーボ
ジェネリック医薬品
国際的な医薬品開発
特許

教育学部

TVに出てくるワード

危険ドラッグ、ペプチド
トランス脂肪酸
iPS細胞、ES細胞

多文化社会学部



毒矢
↓
筋弛緩薬

全学モジュール I 科学/技術の恩恵と限界

「リスク社会を理解する
～医療と健康、社会科学、科学技術～」(16-A5)



現代社会を規定する重要な要素であるリスクについて、その特徴と、これを制御するための取組を、生命、技術、経済の三つの観点から検討する。



医療と健康

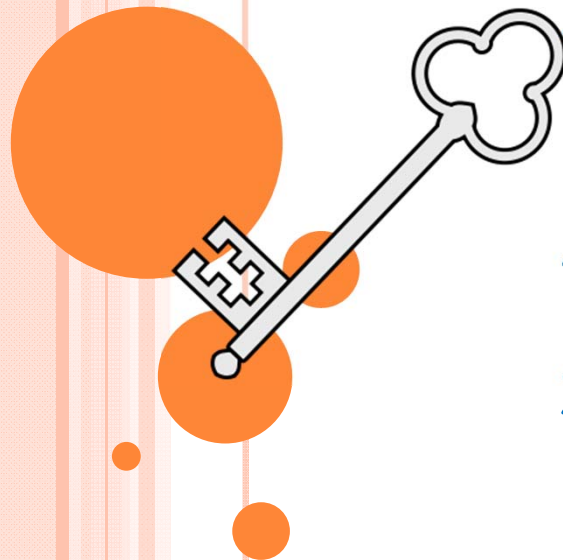
「健康と医療の安全・安心」

健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。

- ①健康と医療に関する日本のヘルスケアシステムを知る。
- ②自身の健康増進のために何をすべきかを自覚する。
- ③様々な疾病の一般的な知識を獲得する。
- ④グローバルな視点で医療を考えることができる。

医療と健康

「健康と医療の安全・安心」



Keyword

医療システム

健康増進

様々な疾病

科学技術

「科学と技術の安全・安心」

危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献する知識と理解を涵養する。実社会で安全で安心に生活できるような基礎的知識を身につける。

安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごしがちで、危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要になります。

科学技術

「科学と技術の安全・安心」

本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解することを目標とする。



Keyword

科学技術の安全
システムの安全と安心
安全文化と安心

社会科学

「リスク社会と社会科学」

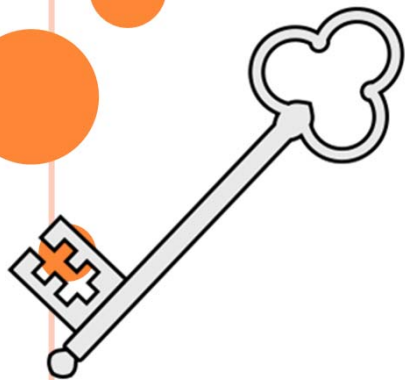
経済社会が発展する中で、リスクや不確実性がもたらすコストや不安を削減するために社会システムがどのような機能や役割を担っているのかを、経済学・経営学・法学などの社会科学的側面から照射することで、リスクに向き合う社会が抱える課題や困難、今後の方向性を理解する。

リスクに対する保険の役割を理解するとともに、私的保険と公的保険の境界・役割分担について、経済学のツールを用いて理解できるようになる。また、保険制度が抱える諸課題や政府等で議論されている社会保障の在り方などについて理解できし、自らの見識や見解を持てるようになることを目的とする。

社会科学

「リスク社会と社会科学」

- ・不確実性とリスクの内容を把握し、リスクに対処する社会制度として保険市場の機能と役割を理解する。
- ・民間保険を対象として保険需要と保険供給の基本的特性を理解する。
- ・民間保険では社会的要請に十分応えられない可能性が存在することを理解するとともに、社会保険が存在する根拠を理解する。
- ・現行の社会保険制度を概観したのち、各社会保険制度が抱える課題を理解する。



Keyword

リスクと不確実性
保険 社会保障
効率と公平

全学モジュール I 科目

A6. 核兵器のない世界を目指して

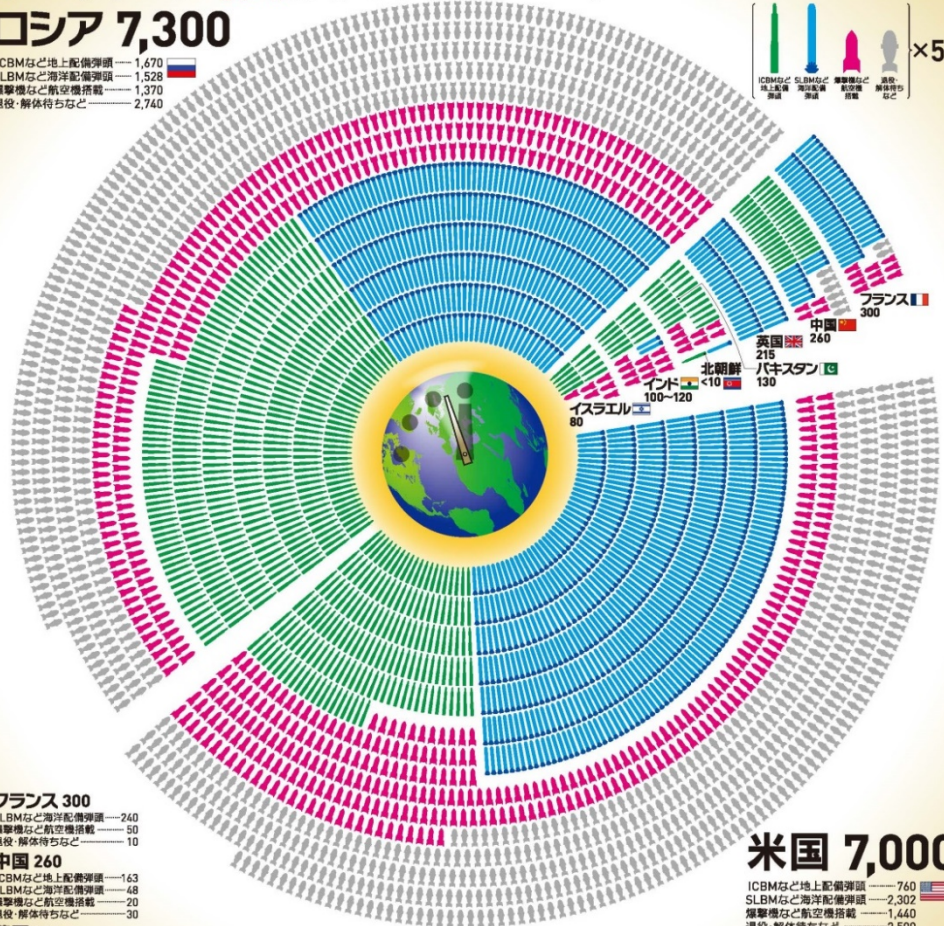
中村桂子(核兵器廃絶研究センター(RECNA))



存在する限りは使われる 世界の核弾頭データ 2016.6

ロシア 7,300

ICBMなど地上配備弾頭—1,670
SLBMなど海洋配備弾頭—1,528
爆撃機など航空機搭載—1,370
退役・解体待ちなど—2,740



フランス 300
SLBMなど海洋配備弾頭—240
爆撃機など航空機搭載—50
退役・解体待ちなど—10

中国 260
ICBMなど地上配備弾頭—163
SLBMなど海洋配備弾頭—48
爆撃機など航空機搭載—20
退役・解体待ちなど—30

英国 215
SLBMなど海洋配備弾頭—215

イスラエル 80
ICBMなど地上配備弾頭—50
爆撃機など航空機搭載—30

パキスタン 130
ICBMなど地上配備弾頭—94
爆撃機など航空機搭載—36

インド 100~120
ICBMなど地上配備弾頭—56
SLBMなど海洋配備弾頭—2~16
爆撃機など航空機搭載—48

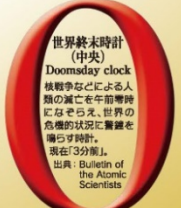
北朝鮮 <10
ICBMなど地上配備弾頭—?
SLBMなど海洋配備弾頭—?

米国 7,000

ICBMなど地上配備弾頭—760
SLBMなど海洋配備弾頭—2,302
爆撃機など航空機搭載—1,440
退役・解体待ちなど—2,500

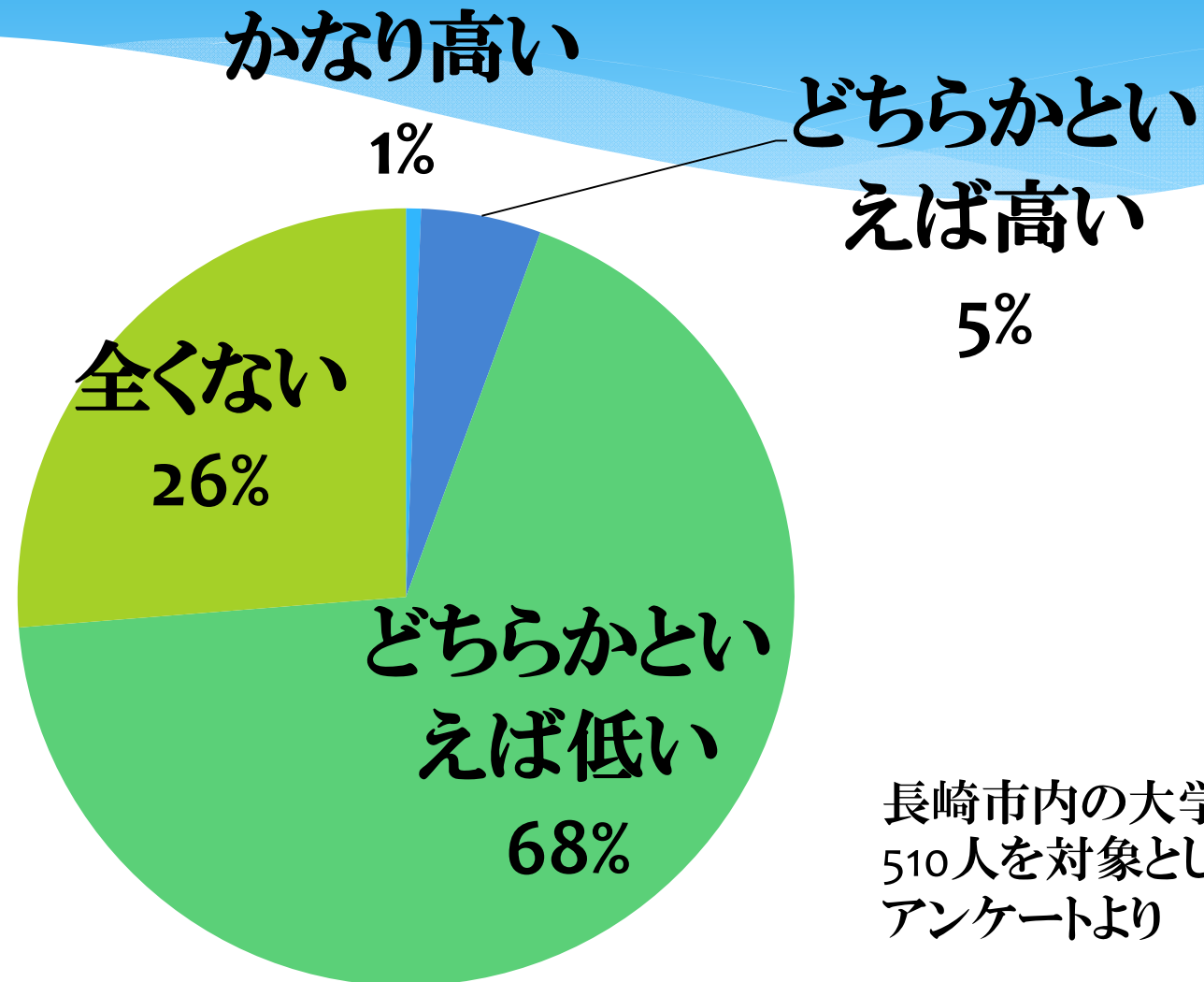
15,350

前年比:-350



核兵器廃絶長崎連絡協議会/長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA) 作成:RECNA核弾頭データ追跡チーム さらに詳しいデータは: <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>
数字は丸めてあるため、実際の合計数と異なる場合があります。

Q:核兵器がなくなる可能性はどれくらいあると思いますか?



長崎市内の大学生
510人を対象とした
アンケートより

テーマの趣旨

世界から核兵器を廃絶するために必要となる、具体的な知識やアプローチについて、さまざまな角度から学び、考察する。

- ▶ 核兵器とは何か、その基本的仕組みや、核兵器をめぐる歴史と世界の現状について基礎知識を得る。⇒「核兵器とは何か」
- ▶ 核兵器がなぜ生まれ、今も維持されているのか、その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学ぶ。⇒「国際社会と平和」
- ▶ 長崎における被爆の歴史、社会への影響について学び、被爆体験の継承の問題について考える力を養う。⇒「被ばくと社会」

皆さんへのメッセージ

広島・長崎の被爆者をはじめ、世界中の市民が核兵器廃絶を訴え続けています。にもかかわらず、被爆から70年が経過した今も、世界には**1万5千発以上**もの核兵器が存在しています。「核兵器のない世界」は、単なる理想や夢物語に過ぎないのでしょうか？

本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ？」に答えるとともに、「**過去**」「**現在**」「**未来**」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりを皆さんと考えていきたいと思えます。

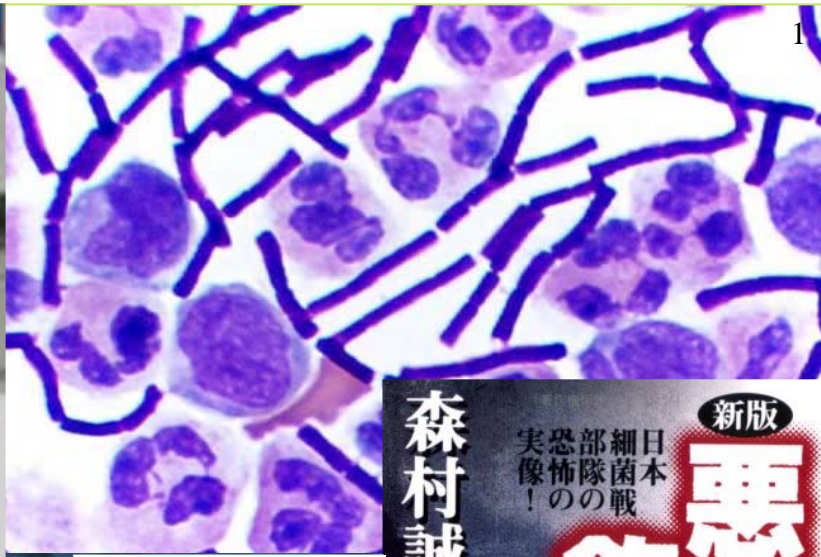
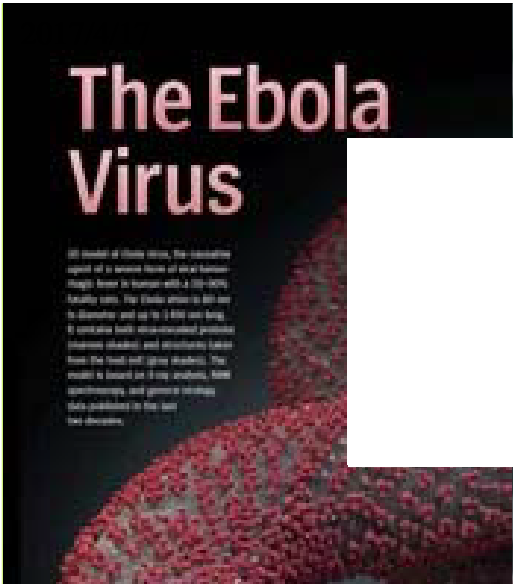
被爆地・長崎だからこそ学べる、特色あるモジュールです！

A7 暮らしの中の科学

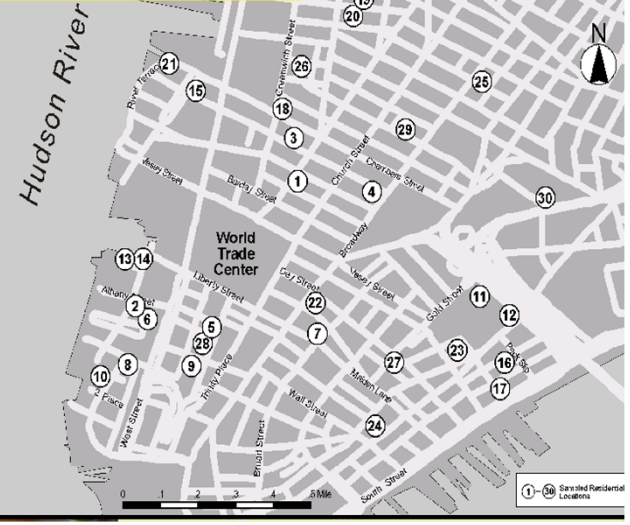
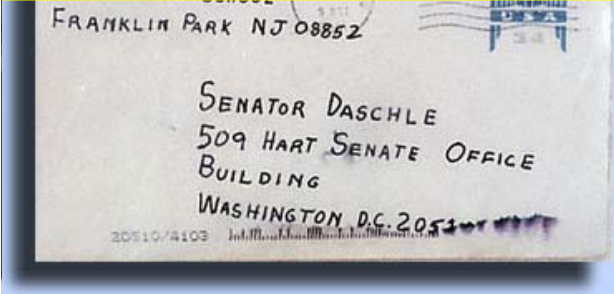
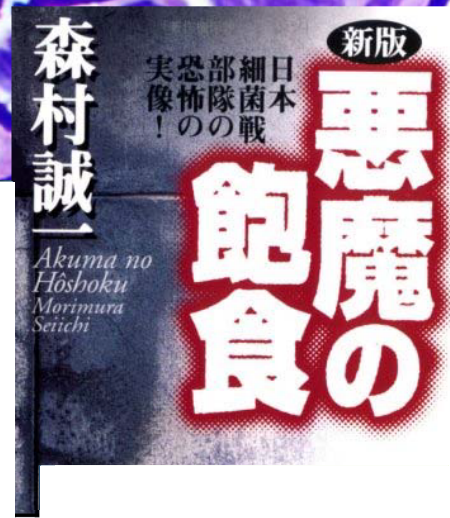
テーマ責任者 藤村誠

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	暮らしの中の科学1		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	暮らしの中の科学2		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	藤村 誠	責任部局	工学部
趣 旨	<p>自然の偉大さや美しさに驚きや感動を覚えた経験はありませんか？人類は古くから、自然現象を理解しようと多大な努力を重ねてきました。自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあります。そのため、私たちは生きていく上で、自然現象を正しく理解していく必要があります。自然科学とは、自然界で起きる様々な事象の法則性を明らかにする学問です。つまり、自然現象をいかに抽象化し、近似するかを模索する学問です。一方、技術とは、それらの成果を巧みに利用して人間社会に役立てるための仕組みを作ることです。自然科学と技術の発展によって、我々の生活はとても豊かになってきました。科学技術の限界や危険性を正しく認識すると共に、謙虚な姿勢で自然現象の真理を見抜く目を養うことは、私たちが暮らしていく中で、とても重要なことです。</p> <p>本テーマでは、高校において修得しておくべき自然科学の内容を、大学生の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解していくことを目標としています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学や物理、化学、生物が苦手な方も大歓迎です。 ・共通ルール(定義)はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。 ・自然科学を学ぶことは、“自然現象の言語”を学んでいると言えるかもしれません。 		

科目名	担当者名	概要	キーワード
暮らしの中の 情報科学	藤村 誠 小林 透	身の回りの生活環境・社会における 情報科学、特に情報処理に関する 数理科学の基礎を理解する。	離散数学、 情報理論 符号化、 ネットワーク
身の回りの中の 物理学	鈴木 誠二 杉本 知史	身の回りの生活に関わる、力やエネ ルギー、流れや波などに関する基本 法則を学び、それらを利用した身の回 りの「ものの構造」と動作原理を理解 する。	力とエネルギー 流れや波 物理に関する基本 法則
環境・生活と化学	山田 博俊 小野寺 玄	地球環境や日常生活におけるさまざ まな現象や物質の振る舞いを、原子・ 分子のレベルから系統的に理解する。	原子と分子、 環境・エネルギー、 有機生命化学、 医薬品合成



微生物と人間社会
医学科提供 全学モジュール I 科目
臨床感染症学 泉川公一



中南米ジカ熱 (Zika virus)

ブラジル、ジカ熱に国挙げて対策 リオ五輪開幕まで半年

リオデジャネイロ＝柴田真宏、田村剛 2016年2月5日 16時27分

シェア 15 ツイート list ブックマーク 1 メール 印刷



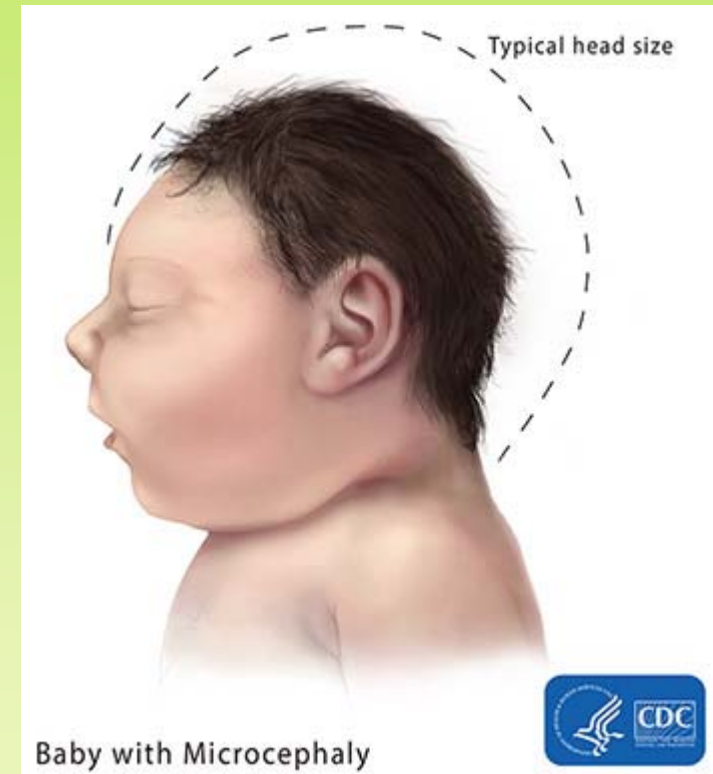
リオデジャネイロ市内で各家庭を訪問し、蚊が繁殖しないよう住民に指導する市職員ら＝1月30日、田村剛撮影



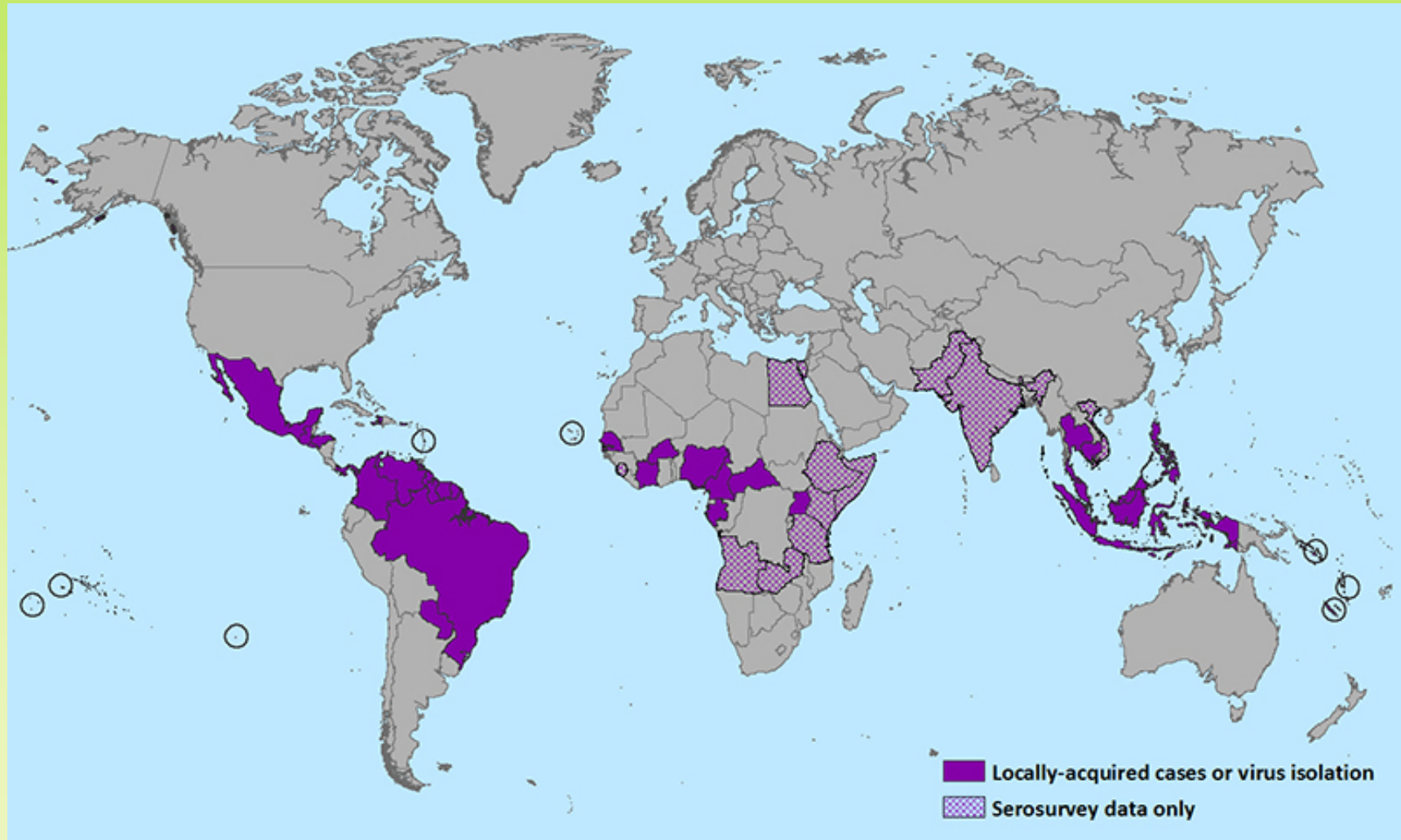
開幕まであと半年に迫った ブラジル・リオデジャネイロ五輪。盛り上がりには水を差すのが、蚊が媒介する感染症「ジカ熱」の流行だ。世界保健機関 (WHO)は、ブラジルだけで150万人が感染する恐れがあると予測する。

特集:ジカ熱 →

ジカ熱が深刻なのは、妊婦が感染すると「小頭症」の子が生まれる恐れがあるからだ。リオでも昨年10月以降、200件近く報告されている。ルセフ大統領は3日夜、「妊婦を守るため、最善を尽くす」とテレビ演説し、蚊の駆除への協力を全国民に求めた。政府は全国で軍22万人を駆除に動員する方針だ。



ジカ熱の浸淫地域

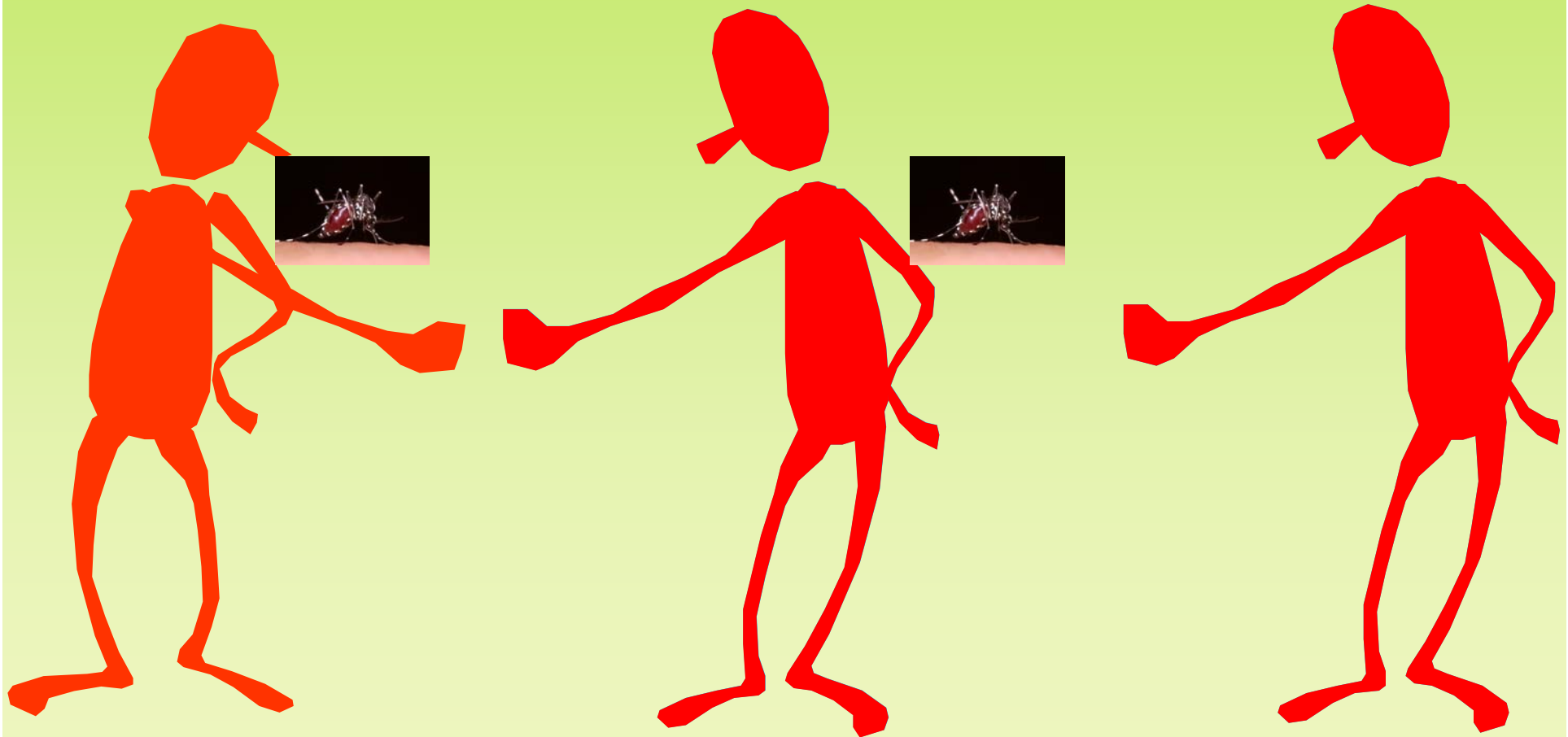


日本におけるzikaウイルスの感染

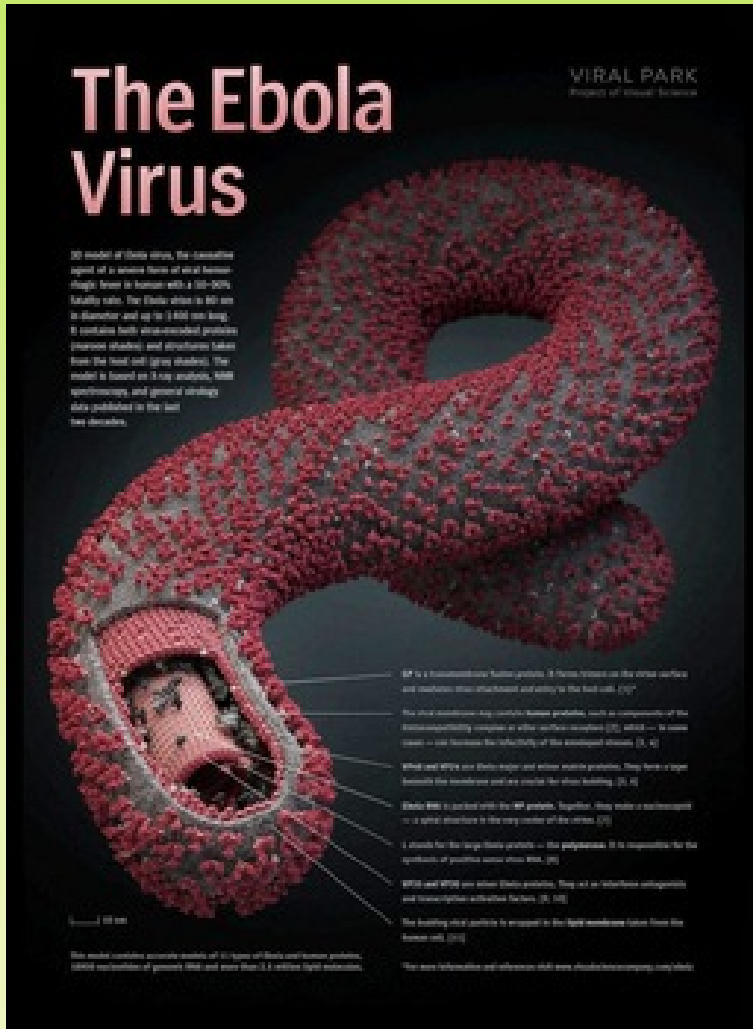
海外で感染
した患者

感染者

感染者



2014-15年のトピック・エボラウイルス病



ヒトと微生物の関係 みなさんの疑問？

- ✓ そもそも微生物って何？
- ✓ ヒトに悪いことをするの？
- ✓ エイズって怖い病気なの？どうやって移るの？
- ✓ 病院ではどうやって診断して、治療しているの？
- ✓ 感染症はどう防ぐといいの？

みなさんの疑問に分かりやすく答えます

回数	授業日	曜	担当教員氏名	備考	グループ発表
第 1回	12 月 4 日	月1	泉川公一、山本和子	微生物とはその種類と数(講義)	
第 2回	12 月 4 日	月2	山本和子	人と共存する微生物 腸内細菌とは?	課題提供(ヨーグルト)
第 3回	12 月 11 日	月1	山本和子	人と共存する微生物 ヨーグルトは役に立つのか? グループ発表とまとめ	○
第 4回	12 月 11 日	月2	田代将人	人にとって有益な微生物(講義)	課題提供(微生物の有効利用)
第 5回	12 月 18 日	月1	田代将人	人にとって有益な微生物 微生物の有効利用 グループ発表とまとめ	○
第 6回	12 月 18 日	月2	田代将人	感染免疫~微生物の侵攻に対する生体反応~(講義)	課題提供(ワクチン)
第 7回	12 月 25 日	月1	河野圭	人に病気を起こす微生物 ワクチンって何? グループ発表とまとめ	○
第 8回	12 月 25 日	月2	河野圭	人に病気を起こす微生物(講義)	課題提供(風邪とインフルエンザ)
第 9回	1 月 15 日	月1	河野圭	人に病気を起こす微生物 風邪とインフルエンザは違うの? グループ発表とまとめ	○
第10回	1 月 15 日	月2	高園貴弘	人に病気を起こす微生物 空気うつる感染症(結核)(講義)	課題提供(治療)
第11回	1 月 22 日	月1	宮崎泰可	人に病気を起こす微生物 どんな微生物がどんな病気を起こすのか(講義)	
第12回	1 月 22 日	月2	高園貴弘	人に病気を起こす微生物 どうやって直すの? グループ発表とまとめ	○
第13回	1 月 29 日	月1	泉川公一	感染症制圧と長崎大学の取り組み (講義)	
第14回	1 月 29 日	月2	泉川公一	微生物の悪用 テロや戦争の道具として(講義)	課題提供(バイオテロ)
第15回	2 月 5 日	月1	泉川公一	微生物の悪用 バイオテロの歴史と科学の進歩 グループ発表とまとめ	○

君なら、どう悪用する？

- ✓テロリストになったつもりで
- ✓何(微生物)を
- ✓どう使用して(感染させて)
- ✓ダメージを与えるか？



テーマ：教育の基礎（A9）

区分： 全学モジュール I 科目

カテゴリー： 変容する環境とリテラシー

対象： 多文化・経済・薬・水産

2017年度・モジュールテーマ説明会・資料

山岸 賢一郎
(長崎大学教育学部)

「教育の基礎」は、
どんな方にお奨め？

「教育の基礎」は、こんな方にお奨め

- **教員免許状の取得を希望する方**
(多文化、経済、水産の方)
⇒ **受講を!**
(推奨モジュールⅡも)
- **「教育」や「教職」に、強い関心のある方**
⇒ **お奨め**

「教育の基礎」は、
どんな感じ？

こんな授業があります

教育の基礎(モジュール I): 1年・後期

教育原理 ... 免許状取得に関わる

教育心理 ... //

教育行政・制度論 ... //

教育に関する**基礎的事項**について、
考えつつ、学ぶ。

たとえば、こんな問い

「子どもが学校に通うのは、当たり前？」

たとえば、こんな問い

「道徳の時間、って必要なの？」

「道徳」と言えば...、これ、小・中学校で使ったかも？



小学校1・2年



小学校3・4年



小学校5・6年



中学校

たとえば、こんな問い

「日本の大学の学費って、高いの？」

教員免許状が欲しい方へ

教員免許状の取得を希望する方へ：幾つか注意

- **簡単に免許状を取得できる、わけではない。**
 - モジュールⅡの「教育相談」も受講する必要あり。
 - **モジュール科目以外の単位も、たくさん必要。**
- **学部によって、取得可能な免許状や、取得までの道のりは、異なる。**
 - **各学部で行われる説明会等に必ず参加。**
- **取得したら必ず先生になれる、わけではない。**
 - 「学校の先生」になるには、各自治体が実施する「**教員採用試験**」に合格する、などの必要。

免許状は必要ないが...、という方へ

「教育」や「教職」に強い関心があれば...

- **受講を歓迎します。**
 - あなたの「興味」「関心」を満たすような、「発見」がある、かも。
- **ただし、次の点は、ご了承ください。**
 - 本テーマは、教員免許状の取得に関わります。よって、**教員免許状の取得のために必要とされる事項を、授業で取り扱わないわけにはいきません。**言い換えると、「こんな内容興味ない」が通用しません。この点、よろしくお願いします。

もう一度。
「教育の基礎」は、
どんな方にお奨め？

「教育の基礎」は、こんな方にお奨め

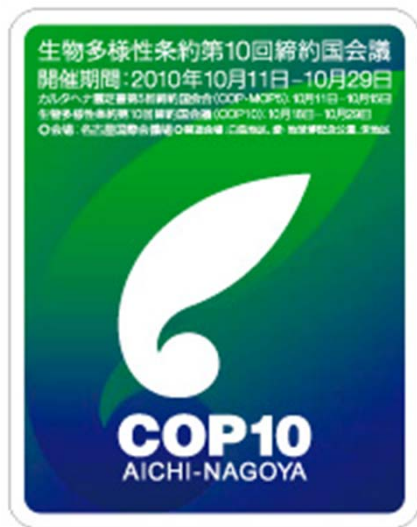
- **教員免許状の取得を希望する方**
(多文化、経済、水産の方)
⇒ **受講を!**
(推奨モジュールⅡも)
- **「教育」や「教職」に、強い関心のある方**
⇒ **お奨め**

環境をめぐる諸問題

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	環境をめぐる諸問題		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境と社会生活	環境と社会の共生	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		

環境科学部学生は受講できません



<http://www.idcn.jp/>



<http://www.mofa.go.jp/>

生物多様性を考える

持続可能性を損なう自然破壊

自然破壊とは、人間によって手を加えられる事がない、あるがままの状態のもの（すなわち自然）に、人間の手を加えて破壊することをいう。その結果として、環境問題が生じる。18 - 19世紀の産業革命・工業化の時代において、自然への負荷と自然の自己修復性のバランスが大きく崩れたことに起因する。自然破壊に駆り立てる直接的な要因として、利潤の追求を基本的な価値観とする資本主義の導入が考えられる。自然破壊に伴って、以下の問題が派生する。

森林破壊 - 洪水、崖崩れ、大気浄化能力低下、地球温暖化、砂漠化

大気汚染 - 地球温暖化、酸性雨、呼吸障害などの健康被害

水質汚染・海洋汚染 - 赤潮、汚染海産物摂取による健康被害

土壌汚染 - 地下水汚染、汚染農産物摂取による健康被害

生態系破壊 - 在来種の減少・絶滅

科目名	担当者名	概要	キーワード
生物多様性を考える	井口 恵一郎 吉田 謙太郎 山口 典之	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農業や水産の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	生物多様性、生態系、生物間相互作用、食糧問題

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
生物多様性を考える	○		◎		○		○				○	◎		◎	◎	



写真 1 : 現地調査



写真 2 : 実験風景



写真 3 : 地元の方との協議

<http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

都市環境を考える

「都市環境を考える」の概要

皆さんが暮らしている長崎市の現状と問題点の理解

景観

斜面市街地

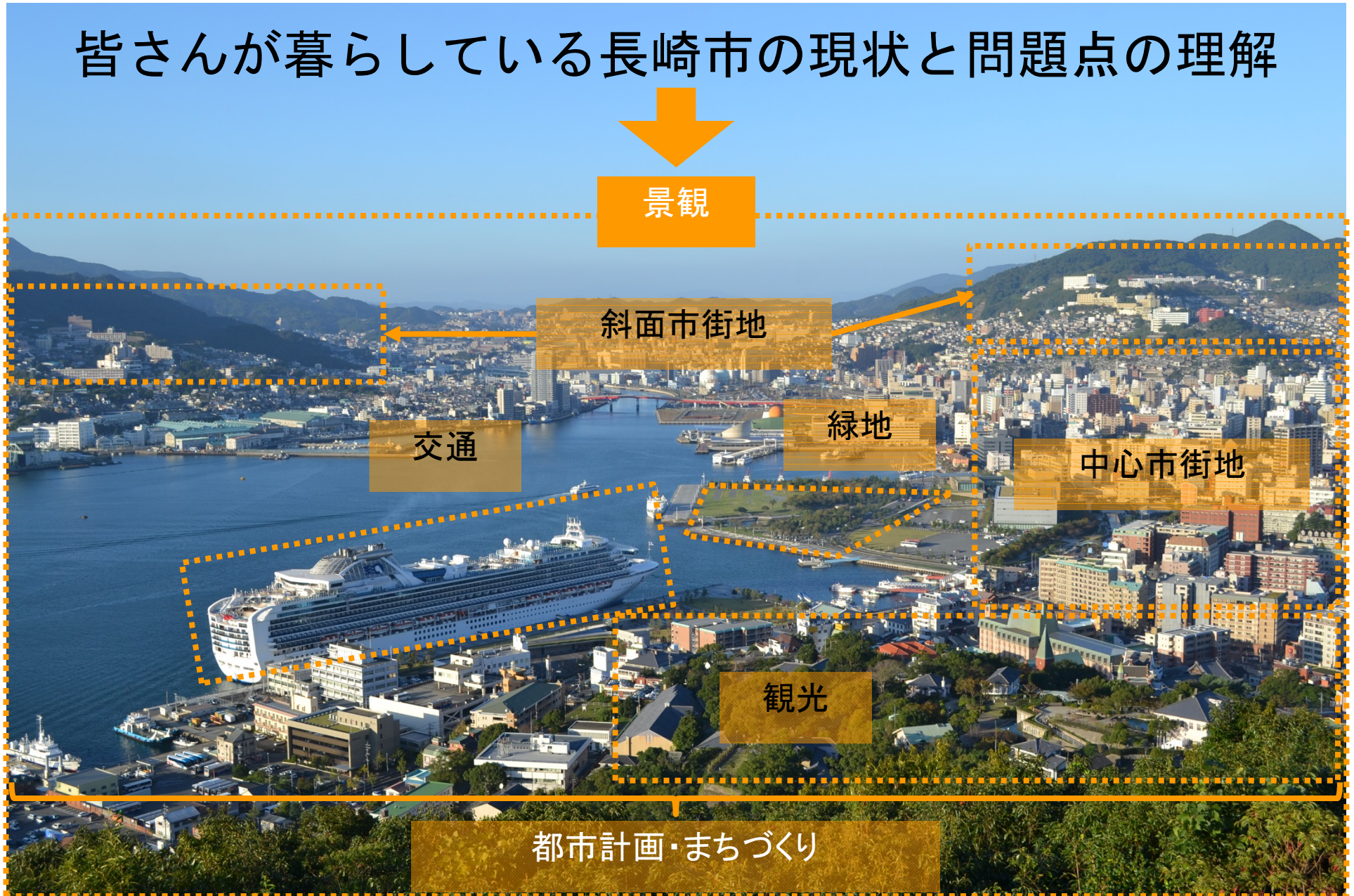
交通

緑地

中心市街地

観光

都市計画・まちづくり



講義（「都市環境を考える」）の概要

担当教員：片山健介(都市計画)・渡辺貴史(緑地計画)

内容：

第1回 講義の概要，都市環境とは何か，長崎市の概要（渡辺）

第2回 景観の基礎知識（渡辺）

第3回 長崎市の景観の特徴（渡辺）

第4回 長崎の音環境（渡辺）

第5回 長崎市の個性を活かした景観の形成に向けて(渡辺)

第6回 都市環境の形成に果たす緑地の役割（渡辺）

第7回 長崎市の緑地の特徴（渡辺）

第8回 長崎の斜面市街地（渡辺）

第9回 長崎県内の地域公共交通の現状（片山）

第10回 斜面市街地の交通システム（片山）

第11回 長崎市の中心市街地とまちづくり（片山）

第12回 長崎の観光を考える（片山）

第13回 都市環境の形成と都市計画（片山）

第14回 広域計画にみる長崎（片山）

第15回 長崎の活性化と官民連携（片山）

評価：平常点 40%，定期試験 60%

教科書：「もう一つの長崎さるく」（谷村/杉山/渡辺）



地球温暖化を考える

地球温暖化を考える

河本和明 高尾雄二 冨塚明 和達容子

概要

温室効果のメカニズムを理解し、温暖化を含めた気候の将来予測を学ぶ。

化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。

国際条約の成立過程や内容を踏まえ、国家間の違いや国際社会への影響について学ぶ。

、 これらを通して、地球温暖化の抑制が技術的かつ国際政治的に複雑な問題であることを理解するとともに、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。

評価方法

授業への積極的な参加(20%)，レポートや小テスト(20%)，発表内容(10%)，期末試験(50%)

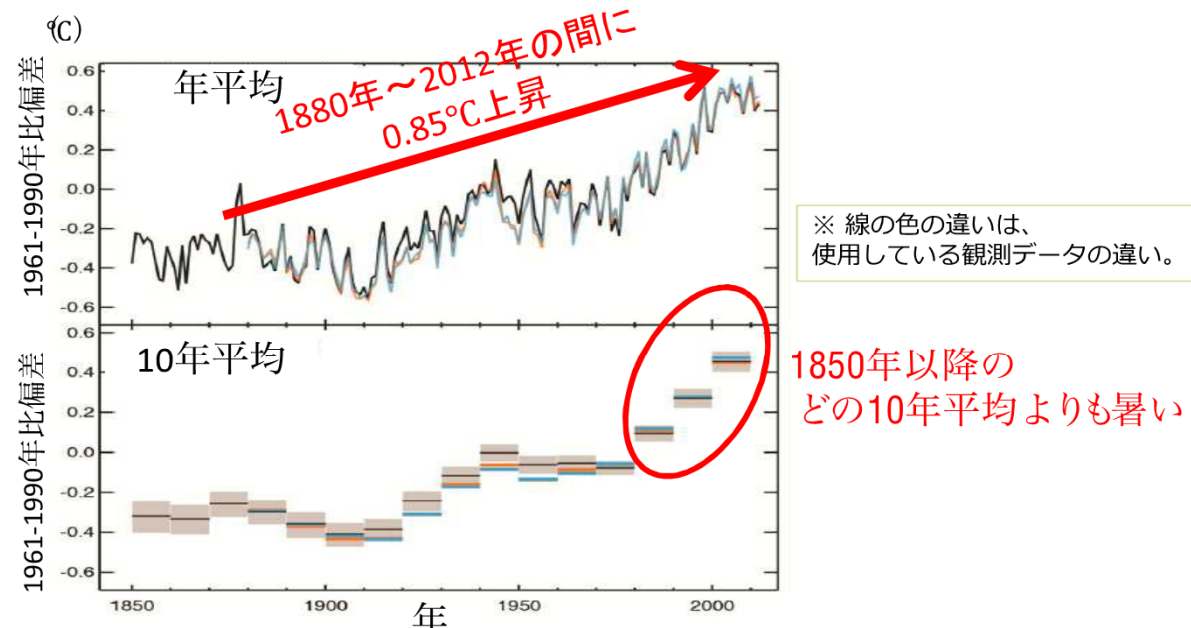
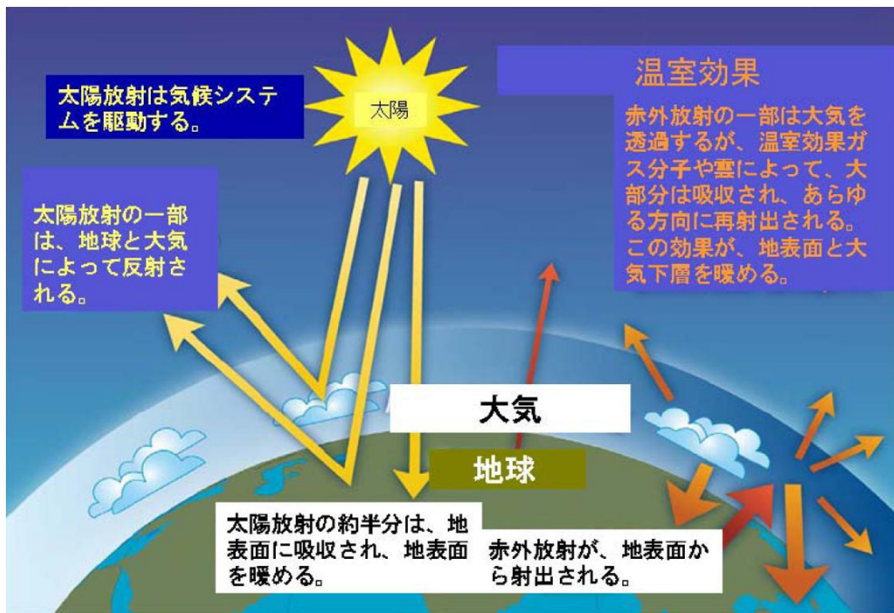
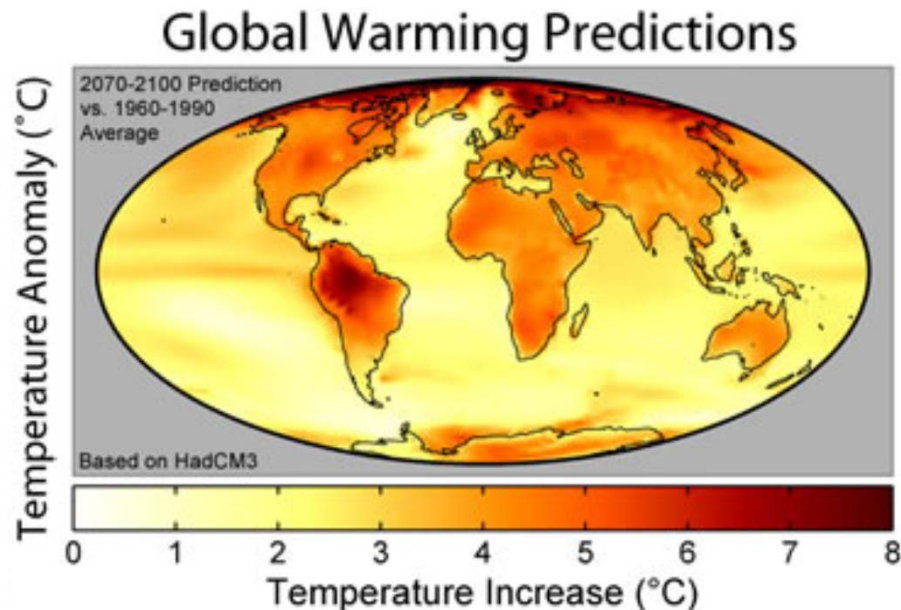


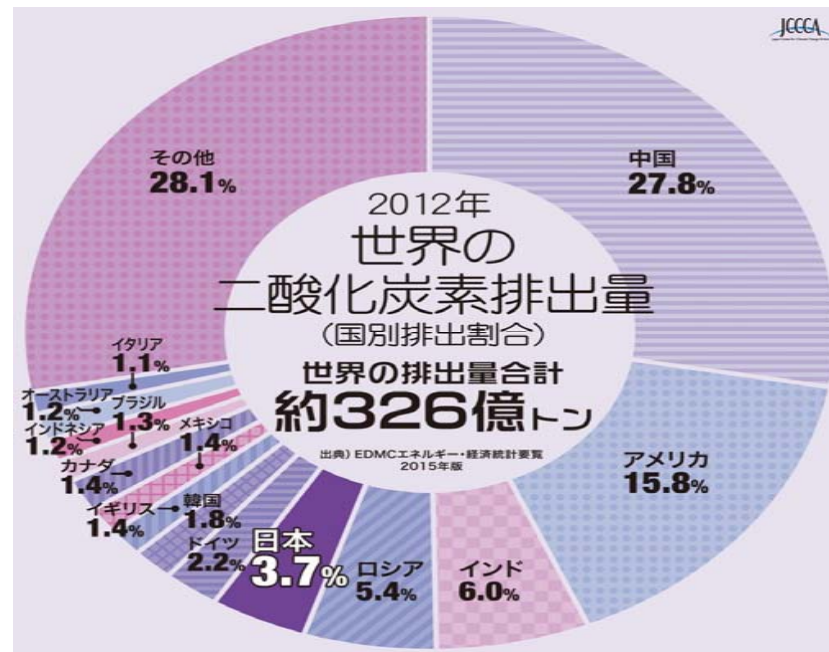
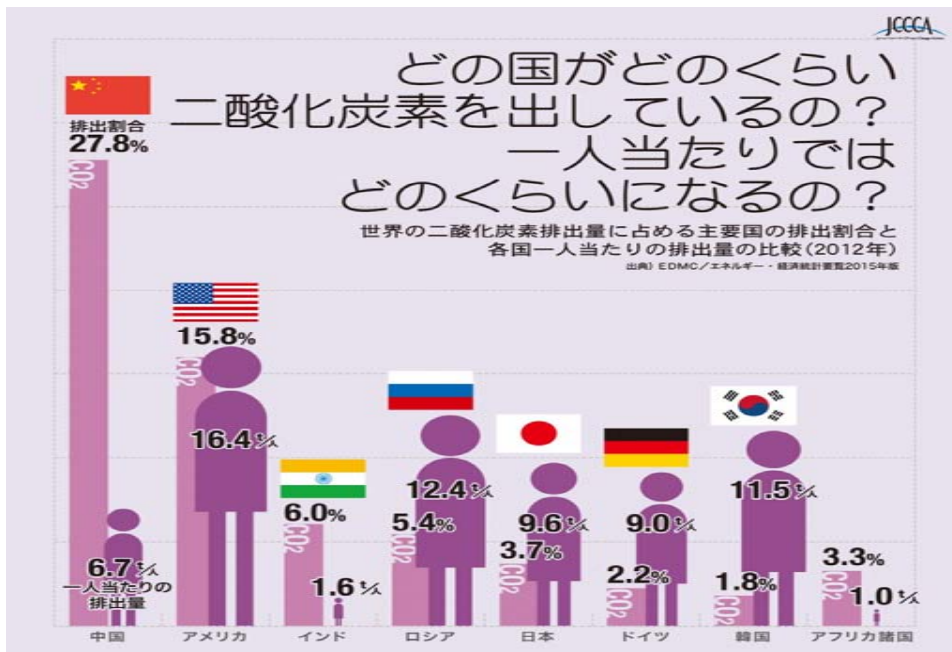
図. 観測された世界平均地上気温（陸域+海上）の偏差（1850～2012年）



温室効果のメカニズム (気象庁)



将来の昇温の見込み (MetOffice)



講義の方式

カテゴリー「変容する環境とリテラシー」

暮らしに活かす情報技術



テーマ責任者 上繁義史 (ICT基盤センター)
科目責任者 丹羽量久 (同上)
一藤裕 (同上)



日々「情報」

- **日常生活**では「情報」がいっぱい
- **勉強**でも「情報」がいっぱい
- **仕事**の世界も「情報」がいっぱい





「情報」を制すると世界が見える

- どんな世界も「情報」が付きもの
- 何をするにも「情報」がモノをいう時代
- 「情報」を道具にしたいと思いませんか？

MOBILE
PHONE

INFORMATION
TECHNOLOGY

INTERNET

DATA

BUSINESS

COMMUNICATION



目標：「情報」 使えるようになる

- モジュール「暮らしに活かす情報技術」では情報の活用, テクノロジー, セキュリティの視点で3科目を提供

情報の活用

- レポート作り最強テク
- 活かしたデータの見せ方

計算機の科学

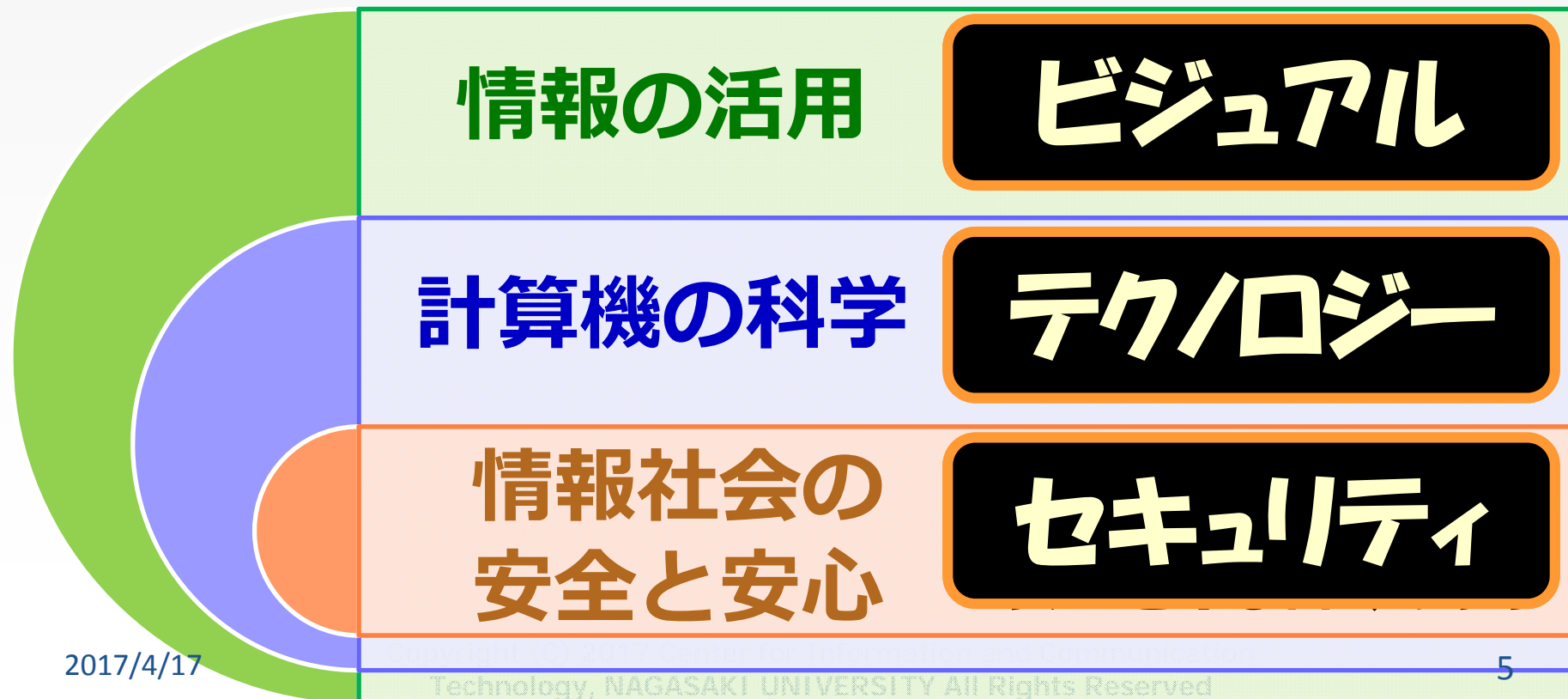
- プログラミングの基礎
- Webサービスの考案

情報社会の安全と安心

- 情報社会の脅威の数々
- 安全を守る日々のワザ

目標：「情報」 使えるようになる

- モジュール「暮らしに活かす情報技術」では情報の活用, テクノロジー, セキュリティの視点で3科目を提供



情報社会の真実，

次の目撃者はあなたです

暮らしに活かす情報技術

推奨するモジュールⅡテーマ

- 「情報社会を考える」
- 「ICTの仕組みと活用法」

国際社会を理解するための 多様な視点

責任部局 国際教育リエゾン機構

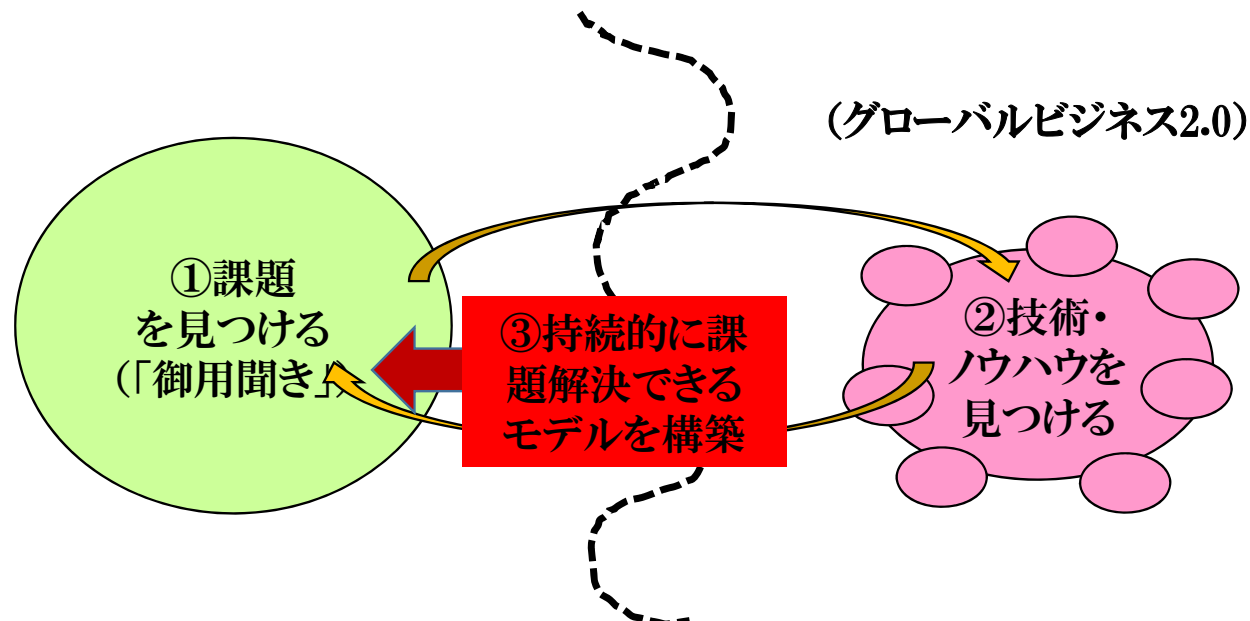
テーマ責任者 松島大輔

趣旨

このモジュールは、将来、グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を、長崎の知の蓄積を基盤として教授することを目的とします。長崎は江戸時代以降、世界に開かれた歴史を有し、海外からの知はこの地を經由して日本にもたらされました。この経験知を共通の基盤として、国際関係を理解するための基礎知識(モジュールⅠ)、グローバル社会の舞台である国際的なビジネス分野、政府や国際機関等の公的分野、NPOやNGOによる民間分野において、どのような活動がなされるのか、そのためにはどのような資質が必要とされるのか(モジュールⅡ)、あるいはグローバル社会での活動の意義といったより基礎的な知識を皆さんと共有します。未知の大海に打って出ようとする気概のある皆さんの受講をお待ちしています。

求める学生像

「国境を越えた」という言葉でなく、国境という概念自体を意識することなく、社会で活躍する人材を育成する、との目的でこのモジュールは目指しています。そこでは単に英語や外国語能力が求められるのではなく、しっかりとした目標を持ち、そのための基礎的な知識や素養をしっかりと身につけておかなければなりません。その上で、高いコミュニケーション能力、すなわち自らの考えをしっかりと相手に伝える力を持つことが必要です。このような意識を有する皆さんの受講をお待ちしています。



科目名	担当者名	概要	キーワード
グローバル化時代の社会問題	松村 真樹	グローバル化社会が直面する諸問題を理解するために必要な社会学的教養を磨くことを目的とする。国民国家の変容、経済のグローバル化、社会的不平等の拡大、消費文化の拡散、国際人口移動と難民、民族や宗教の違いから生じる摩擦、移民とその家族、途上国の貧困、グローバルな環境問題などについて、具体的事例を使って概観し、それらに関わる概念や解釈の仕方を習得する。	国際社会学 新自由主義 国際人口移動 社会開発と格差 人間の安全保障
国際的視点に立った法と政治	嶋野 武志	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければ、紛争が多発してしまいます。しかも、20世紀に比べ、あらゆる面で国際的な交流が増加している21世紀においては、自国の法だけでなく、異なる歴史・文化を持つ他の国・地域の人たちの法についても、基礎的な知識が欠かせません。この科目では、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、国際的なルールである国際法などを概観するとともに、そうした法を生み出す背景としての政治についても考えます。	法 法の背景としての歴史・文化 法を生み出す政治
グローバル人材へのリテラシー～グローバル人材 2.0～	松島 大輔	現代社会におけるグローバル化の意味と将来の就職を考える時、コミュニケーションに必要な情報源の質・量と、そして伝達手段としての言葉や技術の修得が必要最低限となる（語学力・コミュニケーション力）。情報氾濫の時代、限られた時間と空間の中で、自然科学、社会科学、人文科学の諸学を実践的な教養として俯瞰し、長崎を足場にしたグローバル化の実践例を多面的に学ぶ。これが今必要とされる真のグローバル人材（バージョン2.0）であり、そのリテラシーを磨こうではないか。	グローバル人材 2.0、教養、実践知、プレゼンテーション、トランスナショナル、グローバルイノベーション

A decorative graphic on the left side of the slide consists of several overlapping, semi-transparent rectangular shapes in shades of green and blue. One of these shapes is a world map, showing the continents in a darker blue against a lighter blue background. The shapes are arranged in a staggered, overlapping pattern, creating a sense of depth and movement.

A13

コミュニケーション基礎講座

大学教育イノベーションセンター 當山明華

- コミュニケーション基礎講座

コミュニケーション能力は、社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される能力の中でも上位に挙げられている。

このようなコミュニケーション能力を高めるためには、普段当たり前に捉えられているコミュニケーション状況を明らかにし、そのうえで自分自身の能力をより実践的・機能的なものにしていく必要がある。

本科目群では、コミュニケーションを理論的に理解し、基礎的な能力を高めつつ、実践力向上を目指す。

⇒スキルの習得のための課題提出の比重が大きいです！



科目構成

科目名	担当者名	キーワード
対人関係の社会学	岡田 佳子 (地域教育 総合支援センター)	社会化・家族・ ジェンダー・学校文化・ 階層
メディア・コミュニケーション基礎	深尾 典男 (広報戦略本部)	権力・記号・言説分析・ ポストモダニズム
コミュニケーション 基礎実践	當山 明華 若菜 啓孝 (大学教育 イノベーションセン ター) 岡田 佳子 (地域教育 総合支援センター)	日本語・批判的読み・ 自己表現・ 情報リテラシー



科目概要

科目名	概要
対人関係の社会学	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。
メディア・コミュニケーション基礎	日常の様々なメディアの影響力を検討し、社会規範の形成や権力の浸透におけるコミュニケーション過程を理解して生活に活かす。
コミュニケーション基礎実践	日本語の「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高める。加えて、ソーシャルメディアの可能性や情報化の光と影などについても理解する。



到達目標

- 社会の動きに関心を持ち、客観的に情報を捕らえて分析できる
- 集めた情報を基に考えをまとめ、他者と建設的・創造的に議論ができる
- 他者との円滑な人間関係の構築方法が理解できる
- 他者の多様な価値観と受容的に関わることができる
- 正しい引用、注記方法を用いて論理的なレポートを書くことができる
- 自分自身で自分の学習の習得状況を確認・分析・評価することができる



- 下記のような人を歓迎します
 - コミュニケーションについて関心のある人
 - 他者と共同して学習を進めていくことに関心のある人
 - 多様な考え方の習得に関心のある人
 - 学修の習慣をつけたいと考えている人

⇒前提となる知識は特に問いません。

大学生として、そして、その後の社会人として必要な基礎的能力の向上を目的としたモジュール科目群となっています。

そのため、自分で考えて表現することが多くなります。たかがコミュニケーション、されどコミュニケーションです。

